

# 令和7年度 指定研究 合同全県部会資料(1・2年次共通)

日時 : [2年次]令和7年5月14日(水) 14:15 ~ 16:30

[1年次]令和7年5月19日(月) 14:15 ~ 16:30

会場 : [2年次]デンカビックスワンスタジアム 大会運営室4

[1年次]デンカビックスワンスタジアム 大会運営室4

## 令和7年度事業運営方針

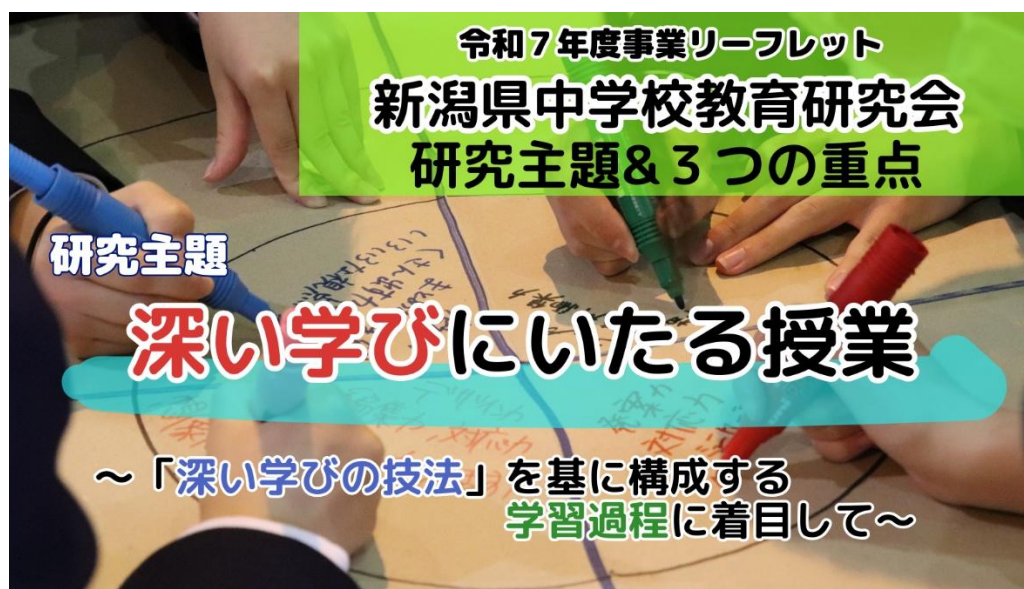
県中学校教育研究会は、新潟県中学校長会の中心課題を踏まえて、次の研究主題と、研究主題の実現に向けた3つの重点をもとに事業を推進する。

### 1 県中学校長会・中心課題（令和7年度）

「豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる生徒を育てる中学校教育」

### 2 基本方針

- (1) 県中教研の研究成果を各学校、各会員の日常の教育実践に生かし、会員一人一人の研究意欲の高揚と資質・能力の向上を図る。
- (2) 県中教研は先進的な情報と研究成果の提供により指針を提示し、指定研究と郡市中教研の研究・研修活動の質的充実を図る。



重点1 生徒の学び	重点2 教師の学び	重点3 中教研の活動
<p>「深い学びの技法」を基に、 学習過程の充実を図り、 生徒の資質・能力を育成します！</p> <p>深い学びにいたるために、「深い学びの技法」と学習過程の充実を図ります。「深い学びの技法」は、「設定」「思考・解決・表現」「評価」の3つの学習過程に応じて設定されています。教師は、生徒が「深い学びの技法」を用いて、学習過程を深めながら、資質・能力を活用・発揮できるように手立てを講じます。</p>	<p>ファシリテーションを取り入れた会員の「深い学び合い」を推進します！</p> <p>ファシリテーションを取り入れた授業検討会、研究協議会などを通して、「深い学び合い」を活性化していくことを目指します。</p> <p>研究推進委員会の委員構成の工夫や、研修体制サポートの充実を図ります。</p>	<p>持続可能な研究活動の在り方を目指した改善を図ります！</p> <p>令和9年度から指定研究推進事業の内容の精選を図り、持続可能な研究活動の在り方を検討していきます。また、県中教研の事業などについても、教育動向に合わせて、柔軟に検討していきます。</p>

新潟県中学校教育研究会 事務局  
〒950-0088新潟市中央区万代1-3-30 万代シティホテルビル3階  
TEL・FAX: 025-290-2251  
E-mail: ken-ckk@niigata-inet.or.jp  
HP: <https://niigata-chukyoken.jp>





新潟県中学校教育研究会  
当会は令和5年度に創設60周年を迎えました



# 重点1



## 生徒の学び

「深い学びの技法」を基に、  
学習過程の充実を図り、  
生徒の資質・能力を育成します！

## 「深い学びの技法」を基に、学習過程の充実を図る

### ①「深い学び」とは？

「深い学び」とは、生徒が学習内容を追究する中で、既習の知識や技能をもとに新たな知識や技能を関連付け、精緻化するなど、思考や認識が高度化している様相をいいます。

### ②「深い学び」に向かうためには？

県中教研では、昨年度から「深い学びの技法」を取り入れました。生徒は追究の中で、「深い学びの技法」を用いながら思考や認識を高度化していきます。そのため、教師はそれが可能となる学習過程を構想します。

### ③ 単元・題材や授業をどのように組み立てますか？

「深い学びの技法」は生徒の「学び方」であるとともに、教師の「手立て」でもあります。下の図のように、学習過程に応じた手立てを講じることで、生徒は学習内容を獲得しながら資質・能力を存分に活用・発揮していきます。

その結果、生徒は、学習内容をより深く理解することにより、資質・能力を異なる状況でも活用できるようになります。資質・能力が確かなものとなるのです。

次の3つの学習過程に応じて、手立てとなる「技法」が下表のように整理できます。

- ①学習対象に対する目的や課題、見通しをもつ「設定」の過程
- ②課題解決を図る「思考・解決・表現」の過程
- ③学んだことを俯瞰したり、振り返ったりする「評価」の過程



「深い学びの技法」を手立てとして講じる

#### 過程 「深い学びの20の技法」

設定	①学んだ知識を活用して課題や目標を設定する
	②知識やデータに基づいて仮説の設定や検証をする
	③視点・観点・論点を設定して思考や表現をする
	④ R-PDCAサイクルを設定して活動や作品を改善する
思考	⑤資料やデータに基づいて考察したり検証したりする
	⑥複数の資料や観察結果の比較から結論を導く
	⑦視点の転換や逆思考をして考える
	⑧異なる多様な考えを比較して考える
解決	⑨学んだ知識や技能を活用して思考や表現をする
	⑩仲間と練り合いや練り上げをする
	⑪原因や因果関係、関連性を探る
	⑫学んだ知識・技能を活用して事例研究をする
表現	⑬理由や根拠を示して論理的に説明する
	⑭学習モデルを活用して思考や表現をする
	⑮自分の言葉で学んだことを整理しまとめる
	⑯要素的な知識や知見を構造化・モデル化する
評価	⑰既製の資料や作品を批判的に吟味検討する
	⑱身につけた資質・能力をメタ認知し成長につなげる
	⑲学習成果と自己との関わりを振り返る
	⑳学んだことを生かして、次の新しい課題を作る

#### 参考・引用

- 田中 博之 (2023) .「中学校における深い学びの在り方と これからの授業改善の方向」『新潟県中学校教育研究会 授業情報誌Class』8号, pp.6-12.
- 田村 学 (2024) .「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた『個別最適な学びと協働的な学び』の充実」『新潟県中学校教育研究会 授業情報誌Class』9号, pp.6-13.



## 重点2



### 教師の学び

ファシリテーションを取り  
入れた会員の「深い学び合い」を  
推進します！

ファシリテーションを基に、学び合いの促進を図る

## ① ファシリテーションを取り入れる理由は？

県中教研の指定研究推進事業では、毎年1年次・2年次で合わせて約38の指定研究推進委員会が立ち上がります。各郡市で研究授業、研究会を実施し、協議会などでファシリテーション（話し合いを促進する技法）を取り入れ、会員が積極的に学び合っています。

右記のように、ファシリテーションを協議会などの目的に応じて取り入れることで、参加者のインプットとアウトプットの量や質が高まり、理解や表現が促進されます。参加者が自分ごととして、研修や授業を考えることができます。

### ファシリテーションの具体例

#### KJ法



#### マトリックス法（主にKPT法）



#### 指導案拡大法



### よさ

① 参観者が授業で気付いた共通のものをまとめることで、参観者同士で新たな視点や考え方を共有できます。

② 協議会に応じて、観点別のフレームを設定し、参観者の気付きを共有します。さらに、授業の改善方法も共有できます。

③ 授業展開に沿って、教師の働きかけが、生徒の思考や行動にどのように影響したかを分析できます。また、授業者の教授行動など細かい点も分析できます。

### 方法

① 参観者が付箋に気付きをまとめます  
② グループで付箋を出し合い、共通するものをまとめ、グルーピング、ラベリングします。  
③ ②について新たな視点や考え方を共有します。

① 協議会に沿って、観点別のフレームを設定します。  
（例）Keep（有効だった手立て）、Problem（改善すべき手立て）、Try（改善方法や代案）  
② それぞれのフレームごとに、参観者の気付きを共有し、考えを深めます。

① 本時の指導案を拡大機で複写します。  
② 参観者は、授業で「教師の働きかけ」「生徒の反応」に関して、それぞれ気付いたことを付箋にまとめます。  
③ 指導案の流れに沿って、参観者の気付きを共有します。

## ② ファシリテーションにより生まれる 深い学び合い

研究推進委員会で、ファシリテーションを取り入れ、各教科・領域で「深い学びにいたる生徒の姿」とそれに迫るための「深い学びの技法」や「学習過程」を構想します。

そして、お互いに授業実践を共有し、研究会で成果を発表します。研究会の授業協議会で得た新たな学びを、自校で実践することで、会員が学び合い、高め合う「深い学び合い」が活性化します。

県中教研が伝統的に築き上げてきた「深い学び合い」の方法を活用し、学び合いを活性化させましょう。

### 教師の学び合い

#### 目指す生徒の姿の設定



#### 目指す授業の構想



#### 研究推進委員同士による実践



#### 研究会での成果発表

#### 研究成果の共有





# 重点3



## 中教研の活動

## 持続可能な研究活動の在り方の改善を図る

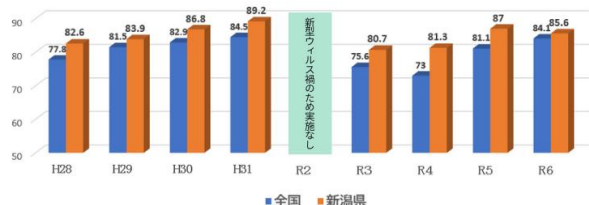
持続可能な研究活動の  
在り方を目指した改善  
を図ります！

### ① 県中教研の強みは何か？

全国学力・学習状況調査 学校質問紙

教員研修に関する質問項目の回答数値の比較について（全国と新潟県）

- ・「教員は、校外の教員同士の授業研究の場に定期的・継続的に参加していますか？」（H28～H30）
- ・「教員は、校外の教科教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか？」（H31～E3）
- ・「個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか？」（オンラインでの研修参加を含む）（R4～R5）



県中教研の会員は、各地区、各都市の中教研の活動を通して、日々、会員で学び合える環境があります。さらに他の地区、郡市の研究を授業情報誌Classを通して学べたり、各地区の指定研究会を参観したりできる環境にあります。この点は他県にない教育研究会としての強みです。

県中教研の取り組みが、県内の中学校教員の「研修参加の意欲」に長年大きな影響を与えてきました。左は、県内の平成28年度から令和6年度の全国学力・学習状況調査の学校質問紙の「教員の研修参加の意欲」に関する数値の結果です。この約10年間、新潟県の中学校では、全国平均以上の数値を維持しています。それだけ、会員の「研修参加の意欲」は高く、お互いに学ぶ風土が確かに醸成されています。

### ② 持続可能な研究活動がなぜ必要か？

県中教研 会員数の推移(平成13年～令和6年)



これまで県中教研、そして、各地区、郡市の中教研で活発な研究活動を行ってきました。しかしながら、今後、これを持続的に継続することは可能でしょうか？

学校の統廃合が進むにつれて、県中教研の会員数も変化しています。平成13年（2001年）まで会員数を5,000人以上で維持できていましたが、令和6年（2024年）には、4,500人を割る状況です。約20年の間に、600人近くも会員数が減少するという実態にあります。

今後、県中教研の中心事業である指定研究の枠組みについて見直し、より持続可能な研究活動を検討する必要があります。教育動向に合わせながら、会員がこれまで通りに研究に取り組めたり、ネットワークを広げたりできることを目指していきます。

### ③ 改善の具体は何か？

#### 指定研究の在り方改善プロジェクト

令和6年度、会長から「これからの県中教研の指定研究の在り方について」諮問されたことを受け、県中教研の評議員会に、「指定研究の在り方改善プロジェクト委員会」を設置し、今後の指定研究の在り方を中心に議論を進めてきました。

指定研究部会の変更、各地区ローテーションの変更（全ての教科・領域で4年に1回）、研究推進委員会の支援制度の導入をしていきます。

令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
令和6・7年度指定研究 →現事業計画に基づく				
会長からの諮問 ↓ 「指定研究の在り方改善プロジェクト」部会の特設ならびに答申の作成	令和7・8年度指定研究 →移行期間-新支援制度の導入可能			
	令和8・9年度指定研究 →移行期間-新支援制度の導入可能			
	※移行期間に、新支援制度のヒアリングを実施し、大綱を作成する(各地区郡市中教研会長会、各地区校長会、指定研究関係者)。			
			令和9・10年度指定研究 →新事業計画に基づく →指定研究部会の変更、指定研究の各地区ローテーションの変更(全ての教科・領域で4年に1回)、新支援制度の導入	

# 令和7年度 指定研究事業

◇令和6・7年度指定 (上段:指定研究推進郡市、下段:令和7年度研究会 会場校)

	上越	中越	新潟	下越
社会	柏崎・刈羽 柏崎市立松浜中学校 11月18日(火)	長岡・三島 長岡市立栖吉中学校 11月27日(木)	新潟 新潟市立新津第五中学校 11月6日(木)	五泉・東蒲 阿賀町立三川中学校 10月29日(水)
理科	上越 上越市立城東中学校 11月11日(火)	南魚沼・南魚 南魚沼市立六日町中学校 11月20日(木)	新潟 新潟市立下山中学校 11月6日(木)	村上・岩船 村上市立山北中学校 10月10日(金)
英語	糸魚川 糸魚川市立能生中学校 11月11日(火)	加茂・南蒲 田上町立田上中学校 11月26日(水)	新潟 新潟市立亀田西中学校 11月6日(木)	佐渡 佐渡市立相川中学校 11月14日(金)
音楽	柏崎・刈羽 柏崎市立北条中学校 11月28日(金)		新潟 新潟市立新津第一中学校 11月6日(木)	
保健体育		長岡・三島 長岡市立秋葉中学校 10月22日(水)		阿賀野・胎内・北蒲 聖籠町立聖籠中学校 11月20日(木)
学校保健	上越 上越市立吉川中学校 11月19日(水)		新潟 新潟市立東石山中学校 11月13日(木)	

◇令和7・8年度指定 (上段:指定研究推進郡市、下段:令和8年度研究会 会場校)

	上越	中越	新潟	下越
国語	妙高 妙高市立妙高高原中学校	燕・西蒲 燕市立燕中学校	新潟 新潟市立内野中学校	五泉・東蒲 五泉市立川東中学校
数学	柏崎・刈羽 刈羽村立刈羽中学校	十日町・中魚 十日町市立中条中学校	新潟 新潟市立木戸中学校	村上・岩船 村上市立岩船中学校
道徳	上越 上越市立名立中学校	長岡・三島 長岡市立北辰中学校	新潟 新潟市立小須戸中学校	佐渡 佐渡市立南佐渡中学校
美術		三条 三条市立大崎学園		新発田 新発田市立猿橋中学校
技術・家庭	上越 上越市立城西中学校		新潟 技術:新潟市立早通中学校 家庭:新潟市立光晴中学校	
特別活動	上越 上越市立潮陵中学校		新潟 新潟市立葛塚中学校	
総合		長岡・三島 長岡市立寺泊中学校		阿賀野・胎内・北蒲 胎内市立築地中学校

## 指定研究の基本方針

指定研究が、資質・能力を育む「深い学びにいたる授業」のモデルとなることにより、会員一人一人の研修意欲の高揚と資質・能力の向上を目指す。

### 1 研究部会の構成と研究会の開催

(1) 研究部会は次の13部会を2グループで構成する。

Aグループ：国語、社会、数学、理科、英語、道徳（6教科）

Bグループ：音楽、美術、保健体育、技術・家庭、学校保健、特別活動、総合的な学習の時間（7教科・領域）

※生徒指導部会・進路指導部会は設置するが研究会を行わない。

(2) 研究会は、県中教研からの教科・領域の指定を受けて地区毎に開催する。

Aグループ：1年に3教科（研究会は2年に1回）

Bグループ：1年に4（3）教科・領域で2地区ずつ（研究会は4年に1回 ※）

※Bグループは教科・領域内における研究の継続性をもてるようにするため、上越・新潟と中越・下越の2地区ずつを2年ずらして指定する。

(3) 事業の推進期間は2か年とし、2年次において成果の発表として研究会を開催し、授業公開を行う。

	部会	地区	R7	R8
A	国語		①	②
	社会		②	①
	数学		①	②
	理科		②	①
	英語		②	①
	道徳		①	②
B	音楽	上新	②	
		中下		①
	美術	上新		
		中下	①	②
	保健体育	上新		①
		中下	②	
	技術・家庭	上新	①	②
		中下		
	学校保健	上新	②	
		中下		①
	特別活動	上新	①	②
		中下		
	総合的な学習	上新		
		中下	①	②

指定研究の新制度に移行

①：指定1年次

②：指定2年次・研究会開催

原則として指定教科・領域の変更はしない。

## 2 研究の方法・内容と経費

- (1) 指定研究は、資質・能力を育む「深い学びにいたる授業」のモデルを開発し、その成果を全県会員に示すことで会員の授業改革を目指す。
- (2) 指定研究の研究活動は研究推進委員同士で授業を見せ合うなど、「教師の学び合い」として推進する。
- (3) 研究は郡市中教研が中心になって研究活動を推進することを原則とする。

### <推進体制>

- ① 運営推進・・・各地区会長、該当郡市会長、地区幹事は、各指定研究の進捗状況を確認し、指導・助言を行う。研究会開催に伴う連絡・調整を行う。
- ② 研究推進・・・指定郡市中教研の教科・領域部を中心に、会場校教科・領域部と協力しながら指定教科領域「研究推進委員会」を組織し、研究推進を行う。

### <研究推進委員会のメンバーの選出>

郡市中教研の指定教科領域部長が「研究推進責任者（副部長）」になり、全県部長、郡市中教研会長、会場校に相談（必要に応じて、郡市の教科・領域の担当指導校長）ならびに指導を受けながら、指導者と研究推進委員を選出する。

- ・ 指導者 …… 各教科・領域の高い専門性をもつ適任者を選出する。委嘱依頼の手続きの後に、副部長は、指導者が所属する所属長に「委嘱承諾依頼書」を送付する。研究推進委員会は指導者からの指導を受けながら、研究を推進する。特に、目指す姿の検討、授業構想の検討、プレ授業後の検討は出来る限り日程を合わせ、指導を受ける。

（例）大学教授、指定郡市・地区内の指定教科・領域担当校長（全県部長がいる場合は兼任も可）、各地区教育事務所指導主事、各市町村教育委員会指導主事など

※ 可能な限り、研究推進委員に、郡市教育委員会や教育センターの指導主事等を入れ、地区ごとの教育動向を踏まえた指導・助言を受けられるようにする。（１年次で指導を受けていた指導主事が、異動により、校長、または教頭に役職が変更した場合、２年次に継続して研究推進委員として指導を継続してもらうことも可能とする。ただし、該当郡市の教育委員会、教育事務所、教育センター等に確実にこの旨の調整を図った上で委嘱を依頼する）

- ・ 研究推進委員・・・副部長は、全員が参画できる適切な人数（例：４～９名程度）で郡市中教研を中心に選出する。内諾を得た後に、副部長は、委員が所属する所属長に「委嘱承諾依頼書」を送付する。

なお、指定研究の在り方改善プロジェクトの答申を踏まえて、郡市の実態から、他地区または他郡市の教諭等に、特別に委員委嘱することが可能である。その際、副部長は指定された委嘱までの手続きをとる。

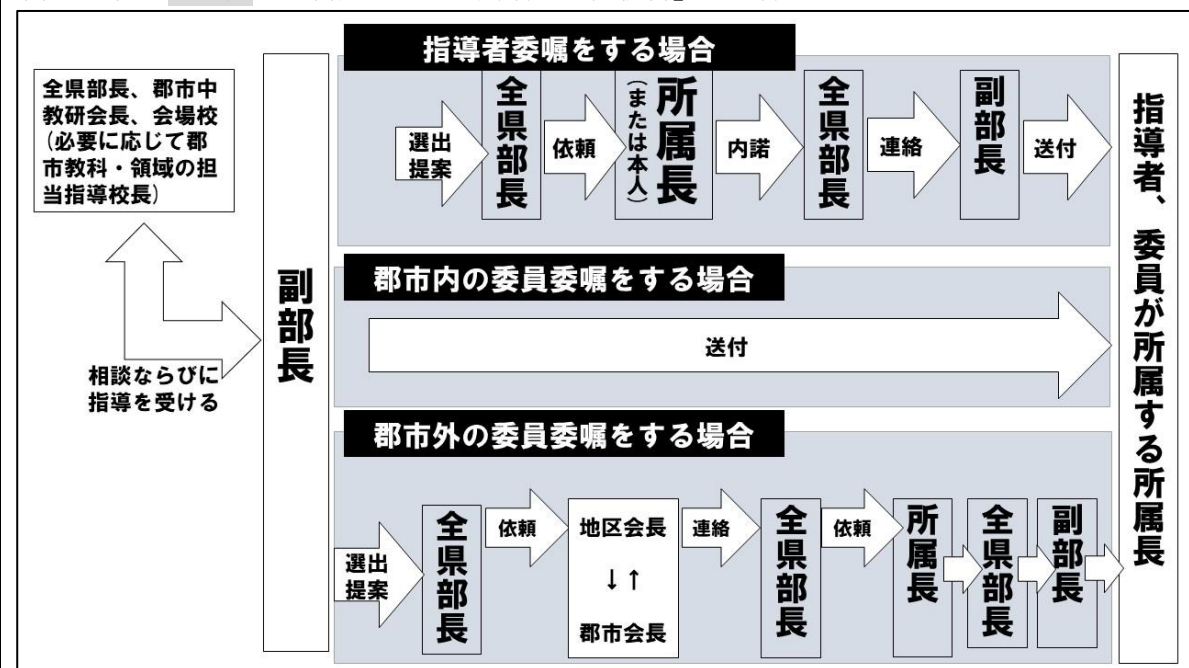


【指導者ならびに研究推進委員の委嘱までの手続き（例：令和5年度から提示）】

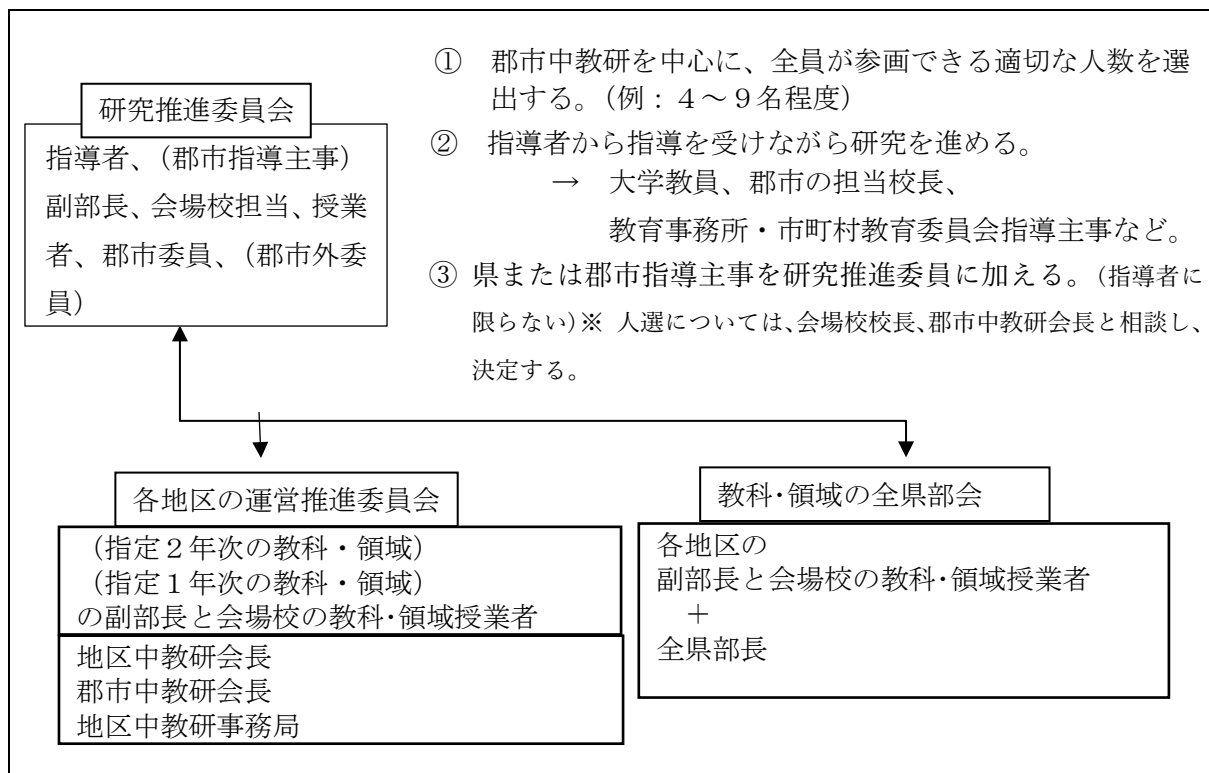
- (1) 副部長は、関係者から指導を受けながら、指導者、研究推進委員の選出をする。
- (2) 全県部長は、指定郡市ごとにあがった「指導者候補者」が学校に所属している場合は所属学校長、ならびに本人への依頼。行政機関・他機関に所属している場合はその機関の所属長、ならびに本人へ指導者の依頼の連絡をする。  
 なお、学校職員である「研究推進委員候補者」については、所属学校長、ならびに本人への事前依頼はしなくてよい。
- (3) (2)の後、副部長は「委嘱承諾依頼書」を作成し、全県部長から点検を受ける。その後、副部長は第1回研究推進委員会開催前、研究推進委員会の「指導者」の所属長あてに「委嘱承諾依頼書」を送付する（郵送またはメール等）。  
 ※指導者が大学教官の場合、「委嘱承諾依頼書」が必要かどうか確認する。  
 ※委員については、本人から所属の学校長に「委嘱承諾依頼書」を提出させてもよい。
- (4) 副部長は、研究推進委員会の名簿を全県部長、郡市中教研会長、会場校長など関係者に確実に送付する。

【他地区・他郡市の教諭等に委員委嘱するまでの手続き】（令和6年度から提示）

- (1) 副部長から全県部長に他地区、他郡市の委員選出について相談する。
- (2) 全県部長から地区会長にその旨の相談、依頼をする。
- (3) 地区会長から郡市会長にその旨の連絡。地区会長は、全県部長に依頼が可能かどうかの旨を返答する。
- (4) 全県部長は委員が所属する所属長に依頼をする。
- (5) 内諾後、副部長は所属長宛てに「委嘱承諾依頼書」を送付する。



## <指定研究の組織図>



- (4) 研究の2年次においては、半日日程で研究発表会を開催し、授業を公開することとする。
- 案内状はメールでの配信とする。
    - ・ 1次案内は、県中教研(7月発行)によって行う。
    - ・ 2次案内は、各会場校が各地区内に配信する。必要に応じて近隣郡市及び近隣の小学校や高校にも配信可能とする。案内文書差出人は郡市中教研会長と会場校校長の連名とする。
  - ※ 感染症が5類になったことから、会場校の負担軽減から、基本的に対面開催とする。
  - 研究会の要項は研究の概要と公開授業の指導案程度の最小限にとどめ、可能な限り10頁以内とする。事前の実践や研修等を掲載した紀要は作成・配布しない。
  - 研究会の資料や協議会記録、写真記録、アンケート結果及び成果・課題等を研究会の前後に県中教研事務局に送付し、県中教研のホームページに掲載する。
  - 会場校の負担軽減の視点から、参加者への湯茶準備などの接遇対応は行わず、参加者とともに研究会をつくりあげる姿勢を大切にする。
- (5) 県中教研が発行する授業情報誌Classに「深い学びにいたる授業」をどのように具現化するかについて、会員に「提案」する内容の記事を掲載する。
- (6) 経費及び旅費補助に関しては次のとおりとする。
- ア 経費は研究推進委員会ごとに1年次に研究推進費5万円、2年次に研究会費3万円を支給する。
  - イ 研究推進費は県中教研事務局の口座から各郡市事務局の口座振込によって6月上旬に支給する。郡市事務局から、郡市の実態に応じて、校長会、教頭会などを通して、副部長に研究推進費を渡すようにする。
  - ウ 研究推進責任者(副部長)が最終年度までの見通しを持って計画的に研究費、会議費、旅費等として執行する。1年次から2年次に繰越を可とし、1年毎に所定の報告書・決算書を、地区事務局を通じて県事務局に提出する。

- ・ 研究推進費 5 万円（1 年次）、研究会費 3 万円（2 年次）の予算内に収まるように計画・執行する。
- ・ 外部講師の謝礼などの基準は各市町村の財務規則運用要綱などに則る。
- ・ 外部講師などを招いた特別研修会で予算が不足した場合は、県中教研事務局に連絡し、適宜、予算の補助を申請する。

オ 旅費補助は指定研究活動推進費より研究推進委員会あたり 15,000 円を上限として補助する。副部長は旅費を含む年間研究推進報告を作成し、県事務局に提出することで補助を受ける。

カ 技術・家庭の指定研究については、指定を受けた地区で 1 運営委員会とする。なお、予算については、技術分野と家庭分野にそれぞれで研究推進費 5 万円（1 年次）、研究会費 3 万円（2 年次）、旅費 15,000 円を配当し、各分野で研究推進委員を中心に組織を運営することを可能にする。地区の実態によって、どちらかの分野のみの場合は、推進費 1 分野のみとする。

キ 5 月、8 月の全県合同部会（1 年次・2 年次研究）では、副部長同士のネットワークづくりを目的とし、全県部長の指示のもと必要に応じて 1 年次・2 年次指定研究があたっていない地区の副部長も会に参加できるようにする。

該当教科・領域：美術、保健体育、技術・家庭、特別活動、総合、学校保健

(7) 県中教研指定研究会では、原則として参加費、資料代等を徴収しない。また、他の団体（学会、研究協議会など）との共催は原則認められない。

### 3 研究会会場校の決定等に関する確認事項

- (1) 研究会会場校とは事業の推進期間 2 か年の最終年度において研究成果の発表として授業公開を行う会場校をさす。
- (2) 研究会を開催する指定研究推進郡市は、各地区中教研の郡市会長会において審議決定する。
- (3) 研究会会場校は、指定研究推進郡市中教研において審議決定する。その際、同年度内で会場校が重複しないようにする。県中教事務局と連携しながら調整を図る。
- (4) 研究会の開催日は、地区会長、指定研究推進郡市会長、会場校担当が相談し、決定する。その際に、各地区幹事は、各地区の研究会の開催日程を集約し、県中教研事務局に報告する。全県教科・領域部長が参加できるように、4 地区（2 地区）の教科・領域内で重複しないことを原則とする。
- (5) 研究を推進する上で行うプレ授業等の会場は、研究会会場校に限らない。

### 4 県中教研・評議員の研究会の参加の対応について

和 5 年度より、会場校の負担軽減のために、「県中教研評議員（会長、副会長、理事長、他地区・他郡市からの地区・郡市会長等）の対応」の変更をし、新しい方法を検討した。遠方から研究会に参加していただく評議員の方への対応や、令和 5、6 年度の実態を踏まえ、令和 7 年度は以下の対応とする。

- (1) 研究会において、研究指導者は「来賓」の立場で参加する。評議員は「評議員」の立場で参加する。参加名簿についても同様とする。
- (2) 開閉会式等に、「評議員」の「あいさつ」は設定しない。
- (3) 「来賓」と同様に、「評議員」の控室、開閉会式・協議会などの座席、表示を用意する。また、「来賓」と同様の動きで研究会を参観する。なお、駐車場については、特別用意する必要はない。
- (4) 「評議員」には、分科会等は割り振らず、自由に見て回れるようにする。
- (5) 会場校から参加役員へ研究会の案内をメールで送付する。
- (6) 旅費は、県中教研事務局、または、役員の在任校より支給されるため、副部長や会場校などが用意する必要はない。



## 研究会（指定２年次）実施上の留意点

(1) 主催 郡市中教研会長と会場校校長の連名とする。

新潟県中学校教育研究会

新潟県〇〇市（郡）〇〇〇教育研究会

※ 作成した冊子の表紙には「県中教研事業」「新潟県中学校教育研究会」等の語句をかならず記載する。

### (2) 案内状

① 発送者名 郡市中教研会長と会場校校長の連名とする。

② 発送の方法・時期

・ 1次案内は、県中教研事務局が様式⑤を集約し7月にメールで全県送信する。※資料 p. 32

・ 2次案内（資料 p. 41～43）は、会場校責任者が研究会開催日の1ヶ月前をめどにメールで送付する。送付対象は地区及び近隣郡市の各学校、県事務局とする。必要に応じて他地区や近隣郡市及び近隣の小学校や高校にも配信する。（各地区メールアドレスリストデータは県中教研事務局ホームページに近日掲載する。各地区の解凍のパスワードは説明会資料に記載。）

### (3) 要項

① 内容

研究会の要項は研究の概要と単元(題材)構想シート、公開授業の指導案程度の最小限にとどめる。事前の実践や研修等を掲載した紀要は作成・配布しない。

② 表紙の体裁

・ 県中教研事業（表紙の左肩に記載する。主題等の下部に、期日・会場を記載してもよい。）

・ 新潟県中学校教育研究会

〇〇郡（市）中学校教育研究会

※下部に記載。郡市は省略してもよい。

※下部に後援等を記載してもよい。

③ 挨拶文と広告：挨拶文は掲載しない。また、広告、定価等は一切記入しない。

④ ページ数：指導案を含む頁数は10頁以内を目安とする（研究会に応じて変更可）。

複数クラス公開の場合は増頁も可とする。

⑤ 指導案等の資料を県中教研事務局のホームページに掲載する。事前掲載も可能。研究会終了1週間をめどにデータを県事務局に送付する。

### (4) 研究会当日の日程例

① 研究会は午後からの半日日程を原則とする。

② 当日の流れの例

(1) 受付 13:00頃～（各校の時程に合わせて）

(2) 公開授業

(3) 研究概要説明

(4) 授業協議会

(5) 指導講評 16:30～16:45頃 終了

遠隔地からの参加等への対応を行う場合、ICTを利用した参加や、日程を柔軟に扱うなどの工夫をする。

## (5) 指導案の形式例

1 研究の概要	(3) 指導の構想
(1) 研究主題	(4) 単元・題材の指導計画
(2) 主題設定の理由(目指す深い学びの姿)	(5) 本時の計画
(3) 研究の方法と内容(深い学びの技法と学習過程に関して)	① 本時のねらい
2 指導案	② 手だて
(1) 単元・題材名	③ 本時の展開
(2) 目標	④ 本時の評価

※ FT・ワークショップ形式での協議会実施で参加者の全員参画による教師の学び合いをねらう場合などは、上記の細案の形式にとらわれず、配布資料は、「単元・題材構想シートやClass原稿、指導略案A4用紙1枚、ワークシートだけ」のような最小限の資料配布としてもよい。

(6) 参加費 参加料は取らない。

## (7) 研究会への参加に関する配慮

- ① 発表郡市は各校1名以上参加を原則とする。他郡市も参加できるよう配慮する。特に、4年に1度の発表となるBグループ（音楽、美術、保体、技家、学校保健、特活、総合）には多くの会員が参加できるよう配慮する。
- ② 2次案内は教科・領域担当者だけでなく、校内で回覧するなど全会員の目に触れるようにする。

## (8) 県中教研評議員（会長、副会長、理事長、他地区・他郡市からの地区・郡市会長等）の対応

### ①案内送付について

評議員の参加予定は、集約次第、県中教研事務局より会場校の会場校責任者に送付する。参加される評議員は、受付時刻等の確認が必要になるので、会場校責任者は、指定研究会の案内を参加する個人宛に送付する。

### ②対応について

資料 p.10 を参照

## 令和7年度 授業情報誌「Class」編集計画

### 1 ねらい

- (1) 指定研究の各研究推進委員会が提案する「深い学びにいたる授業」の具体的なイメージやアイデアを会員に発信する。
- (2) 全県会員に配布し、研究会前に内容について伝えることで、研究会への参加の促進や参加者の目的意識の向上を図る。
- (3) 特別寄稿のコーナーを設定し、国の教育動向に合った先進的な示唆を広く共有する。

### 2 発行予定日・発行形態

令和7年10月8日発行予定・表紙：A4判4色刷り 本文：A4判1色刷り

### 3 編集方針・内容

#### (1) コンセプト・方針

- ①『会員がこの授業情報誌を手にとり、毎日の授業や校内研修で試してみたいくなる』
- ②写真や図表を中心に掲載し、授業の具体的な様子を伝える。
- ③指定研究前に発行し、指導案は掲載しない。

#### (2) 内容

- ①指定研究2年次の全県部長(見開き2ページ)  
教科・領域の「深い学びにいたる授業」に関する解説。
- ②指定研究2年次の研究推進委員会(各地区ごとに見開き2ページ)  
提案する深い学びの姿、深い学びにいたるための手立て、ポイントなど。
- ③指定研究1年次(1地区約1/6ページ)  
研究の進捗状況の報告。

### 4 ページ構成・担当者(事務局作成)

### 5 編集日程

4月	編集計画立案
5月14日(火)	指定研究2年次 全県部長・副部長へ執筆依頼(指定1年次第1回全県部会)
5月19日(水)	指定研究1年次 全県部長・副部長へ執筆依頼(指定2年次第1回全県部会)
8月1日(月)	指定研究1年次 全県部長・副部長 原稿確認(指定1年次第2回全県部会オンライン)
8月(各教科による)	指定研究2年次 全県部長・副部長 原稿確認(指定2年次第2回全県部会オンライン)
8月22日(金)	各副部長が全県部長に原稿データ提出 →全県部長から最終点検・最終確認を受けたものを全県部長に提出する
8月27日(水)	原稿提出締め切り(県中教研事務局) →全県部長が、全県部長担当データと、各副部長担当データを県中教研事務局にメールで提出する
9月1週～2週	1校校正(原稿提出後から随時進行)
9月3週～4週	最終(2校)校正
10月上旬	校了



10月8日(水)

発行・発送（発行所より）

※各郡市事務局校に郡市会員数分のClassが発送されます。その後、郡市事務局から、郡市内の各学校に配付をお願いします。新潟市については、直接各学校に発送されます。

## 6 発行部数・予算・発行所

発行部数	4,870部（会員4,389人 学校数237部 謹呈送222部 予備22部）
予 算	1,010,000円（発刊費用ならびに新潟市の各学校、各郡市事務局への発送費含む）
発行所	東京プリント社

## 7 誌面構成

別紙参照

## 8 その他

- ・入力枠(word)、見本、留意事項を県中教研ホームページに掲載。ダウンロードして執筆に使用する。
- ・研究会終了後の研究のまとめ・振り返りとともに、各研究推進委員会のPDFデータを県中教研ホームページに掲載する。
- ・原稿に掲載する写真について、生徒の顔が明確に判別できるものに関しては、執筆担当者が学校を通じて本人及び保護者から掲載の許諾をとるか、顔が判別できないよう写真の加工を行う。

Class 10 誌面構成

当日の配付資料を参照

# ●指定研究チームが提案する深い学びにいたる授業

## 教科・領域 <○○○地区・○○○市中教研>

### 月　日（ ） 研究会開催

研究主題 ○○○○○○○○○○○○○  
単元名 「〇年：○○○○○○○○○○」  
（題材名） ～○○○○○○○○～  
会場校 ○○○立○○○中学校  
公　開 ○学級  
授業者 ○○○○  
授業者 ○○○○  
指導者 （所属）(役職) (氏　名) 様

研究推進責任者  
\_\_\_\_立\_\_\_\_中学校  
氏　名 \_\_\_\_\_

教科・領域担当者  
\_\_\_\_立\_\_\_\_中学校  
氏　名 \_\_\_\_\_

#### こんな深い学びの姿を目指します

○○○○○○○○○○○○○○○○し、○○○○○○○○○○○○○○○○していく姿を目指す。○○○○○○○○○○○○○○○○によって、生徒は○○○○○○○○○○○○○○○○しながら、○○○○○○○○○○○○○○○○することで、○○○○○○○○○○○○○○○○になります。○○○○○○○○○○、○○○○○○○○○○なのです。

#### 主な手立て（『学習過程』と「深い学びの技法」の間連）

##### 生徒の学習過程

##### 設定

##### 思考 解決 表現

##### 評価

**ポート１（設定の過程→「深い学びの技法」のNo. ●）**  
○○○○○○○○○○○○○○○○で、○○○○○○○○○○○○○○○○を設定する。

これにより、生徒は○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○に気付き、○○○○○○○○○○○○○○○○するようになる。

**ポート２（思考の過程→「深い学びの技法」のNo. ●）**  
○○○○○○○○○○○○○○と比較し、○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○する活動を組織する。

これにより、生徒は○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○するために、○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ようになる。

**ポート３（表現の過程→「深い学びの技法」のNo. ●）**  
○○○○○○○○○○○○○○のモデルを活用して、○○○○○○○○○○○○○○○○を表現する。

これにより、生徒は○○○○○○○○活用しながら、○○○○○○視覚化し、○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○になる。

<p><b>単元(題材)の様子</b></p> <p>○○○○○○○○○○○○○○、○○○○○○○○○○○○          ○○○○します。(そのポイント設定の理由)          これにより、○○○○○○、○○○○○○できるよ          うになります。(手立てにより、活用・発揮させる資質・          能力)。</p>	<p>図表・写真など</p>
<p>○○○○○○○○○○○○○○、○○○○○○○○○○○○          ○○○○○○します。(そのポイント設定の理由) ○○          ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○          ○です。(具体的な説明)</p> <p>これにより、○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○          ○、○○○○○○○○できるようにになります。○○○○○          ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○          ○○○○○(手立てにより、活用・発揮させる資質・能          力)。</p>	<p>図表・写真など</p>
<p>○○○○○○○○○○○○○○、○○○○○○○○○○○○          ○○○○します。(そのポイント設          定の理由)          これにより、○○○○○○、          ○○○○できるようにしま          す。(手立てにより、活用・発揮          させる資質・能力)。</p>	<p>図表・写真など</p> <p>○○○○○○○○○○○          ○、○○○します。(そのポ          イント設定の理由)          これにより、○○○○○          ○○○○○○、○○○          ○○○○○○○○○○○○          ○○○○を育成します。  <b>ポイント3</b></p>
<p><b>研究会</b></p> <p>“○○○○○○○○”の○○○○○          ○○は、○○○○○○○○○○○○          ○○○○○○○○○○○○予定で          す。</p> <p>○○○○○○○○○○○○○○          ○○○○○○○○○○○○授業を予定          しています。  <b>ポイント1・2・3</b></p>	<p>図表・写真など</p> <p>プレ授業時の様子          や使用予定教材の写          真など</p>

○○○○○○○○○○○○○○○  
 ○○○○○○○○○○○○○○しま  
 す。

●指定研究チームが提案する深い学びにいたる授業

# 教科・領域

<○○地区・○○○市教研>

## 月 日 ( ) 研究会開催

---

**研究主題** ○○○○○○○○○○○○  
**単元名** 「○年：○○○○○○○○○○」  
 (題材名) ~○○○○○○○○~  
**会場校** ○○○立○○○中学校  
**公開校** ○学級  
**授業者** ○○○○  
**授業者** ○○○○  
**指導者** (所属)(役職) (氏 名) 様




研究推進責任者 \_\_\_\_\_ 立\_\_\_\_中学校  
 氏 名 \_\_\_\_\_

教科・領域担当者 \_\_\_\_\_ 立\_\_\_\_中学校  
 氏 名 \_\_\_\_\_

---

こんな深い学びの姿を目指します

○○○○○○○○○○○○○○○○し、○○○○○○○○○○○○○○○○していく姿を目指します。○○○○○○○○○○○○○○○○によって、生徒は○○○○○○○○○○○○○○○○しながら、○○○○○○○○○○○○○○○○することで、○○○○○○○○○○○○○○○○になります。○○○○○○○○○○、○○○○○○○○○○なのです。

主な手立て（『学習過程』と『深い学びの技法』の間連）

生徒の学習過程	
<div style="text-align: center;"> <b>設定</b>      <b>思考解決表現</b>      <b>評価</b>    </div>	<p><b>ポート1（設定の過程→『深い学びの技法』のNo.○）</b>            ○○○○○○○○○○○として、○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○を設定する。            これにより、生徒は○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○に気づき、○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ようになる。</p> <p><b>ポート2（思考の過程→『深い学びの技法』のNo.○）</b>            ○○○○○○○○○○○と比較し、○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○する活動を組織する。            これにより、生徒は○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○と○○○○○○○○○○するために、○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ようになる。</p> <p><b>ポート3（表現の過程→『深い学びの技法』のNo.○）</b>            ○○○○○○○○○○○のモデルを活用して、○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○を表現する。            これにより、生徒は○○○○○○○○○○を活用しながら、○○○○○○○○○○を視覚化し、○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○となる。</p>

単元(題材)について	
単元(題材)の様子 ○○○○○○○○○○○○、○○○○○○○○○○ ○○○○○○○します。(そのポイント設定の理由) ○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○です。(具体的な説明) これにより、○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○、○○○○○○○できるようにになります。(手立てに より、活用・発揮させる資質・能力)。	図表・写真など
<b>ポイント1</b>	
○○○○○○○○○○○○、 ○○○します。(そのポイント設 定の理由) これにより、○○○○○○○、 ○○○○できるようになりま す。(手立てにより、活用・発揮 させる資質・能力)。	図表・写真など  ○○○○○○○○○○ ○、○○○します。(そのポ イント設定の理由) これにより、○○○○○○ ○○○○○○、○○○ ○○○○○○○○○○○○ ○○○○○を育成します。 <b>ポイント3</b>
<b>ポイント2</b>	
<b>研究会</b>	
“○○○○○○○○”の○○○○ ○は、○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○予定 です。 ○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○授業を予定 しています。 <b>ポイント1・2・3</b>	図表・写真など  プレ授業時の様子 や使用予定教材の写 真など
○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○しま す。	



● 指定研究チームが提案する深い学びにいたる授業

# 数学 <新潟地区／新潟市中教研>

11月7日(木) 研究会開催

研究主題：数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成する授業

～「課題設定」「見通し」「まとめ」に注目した授業改善～

単元名：「1年：変化と対応」 授業者：渡辺 大樹

「2年：図形の調べ方」 授業者：古川 智子

「3年：関数 $y=ax^2$ 」 授業者：工藤 貴史

会場校：新潟市立内野中学校

公開：3学級

指導者：新潟市立総合教育センター 指導主事 熊谷 友良 様



研究推進責任者  
新潟市立上山中学校  
関谷 卓也



教科・領域担当者  
新潟市立内野中学校  
斎藤 麻子

## こんな深い学びの姿を目指します

数学科における「深い学び」とは、『数学的な見方・考え方を働かせ、数学的に考える資質・能力を育成する学び』です。その実現には、数学的活動が欠かせません。

本研究では、①数学的活動の出発点である<課題>を生徒が設定する姿、②数学的な見方・考え方を働かせるための<見通し>を生徒がもつ姿、③培う資質・能力である<まとめ>を生徒が整理する姿を目指しています。

## 主な手立て（「深い学びの20の技法」「生徒の主体的な課題解決過程」との関連）

### ポイント1（「深い学びの技法」のNo.1）

<課題設定> 予想とのズレ、既習とのズレを発展させ、「どのように」「なぜ」から始まる課題を生徒から引き出す。

### ポイント2（「深い学びの技法」のNo.9）

<見通し> 既習を振り返ることを通して、生徒が働かせる数学的な見方・考え方を、方法の見通しとしてもたせる。

### ポイント3

<まとめ> 「どのように」「なぜ」から始まる課題に立ち返るように促し、生徒から学習内容（資質・能力）を引き出す。



●指定研究チームが提案する深い学びにいたる授業

# 教科・領域

<○○地区・○○○市中教研>

## 月 日 ( )

### 研究会開催

研究主題 ○○○○○○○○○○○○  
 単元名 「○年：○○○○○○○○○○○」  
 (題材名) ～○○○○○○○○○○～  
 会場校 ○○○立○○○中学校  
 公 開 ○学級  
 授業者 ○○○○  
 授業者 ○○○○  
 指導者 (所属) (役職) (氏 名) 様

研究推進責任者  
 \_\_\_\_立\_\_\_\_中学校  
 氏 名 \_\_\_\_

教科・領域担当者  
 \_\_\_\_立\_\_\_\_中学校  
 氏 名 \_\_\_\_

### こんな深い学びの姿を目指します

○○○○○○○○○○○○○○○○し、○○○○○○○○○○○○○○○○していく姿を目指します。○○○○○○○○○○○○○○○○によって、生徒は○○○○○○○○○○○○○○○○しながら、○○○○○○○○○○○○○○○○することで、○○○○○○○○○○○○○○○○になります。○○○○○○○○○○、○○○○○○○○○○なのです。

### 主な手立て(「学習過程」と「深い学びの技法」の関連)

#### 生徒の学習過程

設定

思考  
解決  
表現

評価

ポイント1(設定の過程→「深い学びの技法」のNo.●)  
 ○○○○○○○○○○○○○○○して、○○○○○○○○○○○○○○○○を設定する。

これにより、生徒は○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○に気づき、○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○するようになる。

ポイント2(思考の過程→「深い学びの技法」のNo.●)  
 ○○○○○○○○○○○○○と比較し、○○○○○○○○○○○○○○○○○○する活動を組織する。

これにより、生徒は○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○と○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○するために、○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○するようになる。

ポイント3(表現の過程→「深い学びの技法」のNo.●)  
 ○○○○○○○○○○○○○のモデルを活用して、○○○○○○○○○○○○○○○○○○を表現する。

これにより、生徒は○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○を活用しながら、○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○を視覚化し、○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○するようになる。

各郡市中教研は以下のように統一表記になります。

上越市中教研、柏崎市・刈羽郡中教研、糸魚川市中教研、妙高市中教研、長岡市・三島郡中教研、三条市中教研、小千谷市中教研、加茂市・南蒲原郡中教研、十日町市・中魚沼郡中教研、見附市中教研、魚沼市中教研、南魚沼市・南魚沼郡中教研、燕市・西蒲原郡中教研、新潟市中教研、新発田市中教研、村上・岩船郡中教研、五泉・東蒲原郡中教研、阿賀野市・胎内市・北蒲原郡中教研、佐渡市中教研

研究推進責任者と教科・領域担当者の  
の写真を掲載させていただきます。

※マスクを着用していない写真をお願いします。

※スキャンや切り取りしたデータではなく、jpeg, png 形式の写真データを使用してください。データの圧縮などはかけないでください。

深い学びの姿を、各教科・領域で育  
成する資質・能力と関連させて記述し  
てください。

### ＜昨年度の Class との変更点＞

- ①ポイントごとに手立てを記入してください。欄外にその意図を記述してください。意図を説明する際、生徒を主語にして書いてください。
- ②手立てと関連する「学習過程」と「深い学びの技法」の No.を記述してください。

【留意点】

- 手立ての記述内容は、個別の単元・題材に準じた内容ではなく、教科・領域で共通する内容にしてください。単元・題材の具体的な手立ては次頁でまとめることになります。
- 例のように、学習過程は、「設定」「思考・解決・表現」「評価」に該当するものを選択してください。なお、3つすべて選択する必要ありません。また、「思考・解決・表現」も該当するものから選択してください。
- 「深い学びの技法」のNoを記述してください。なお、複数のNoが関連している場合は、複数書いても構いません。



## 単元(題材)の様子 中1 変化と対応 ～反比例の導入の授業～

- ① 導入では「視力5.0を測るランドルト環の大きさを求めよう」という問題を提示しました。そして、実測を行い視力と直径の関係を整理しました。

そして、授業者が、「視力1.0の時の5倍だから、直径は3.75cmだ」と、比例の関係をそのまま適応させた誤答を提示しました。当然、生徒は視力と直径の関係が比例でないことを指摘します。

このようなやり取りを通して、既習である比例とのズレを発展させ「視力と直径にはどのような関係があるのだろうか?」という課題を生徒と設定しました。

ポイント1

同じ視力5.0を測るランドルト環の大きさを求めよう。

視力	5.0	4.5	4.0	3.5	3.0	2.5	2.0	1.5	1.0	0.5
直径	1.5	2.0	2.5	3.0	3.75	4.5	5.0	6.0	7.5	15.0

※ 直径はcm

- ② 比例の学習の際から単元名である「変化(横の見方)と対応(縦の見方)」に着目を促してきました。

本時の問題解決においても、授業者は生徒に、比例の特徴を参考にして調べるように促しました。そして、横の見方で考えた人は赤で囲み、縦の見方で考えた人は緑で囲むように指示をして追究を促しました。

このように既習を振り返ると、生徒が働かせる数学的な見方・考え方を、方法の見通しとしてもたせることができます。

ポイント2

視力と直径の関係を探ろう。

視力	5.0	4.5	4.0	3.5	3.0	2.5	2.0	1.5	1.0	0.5
直径	1.5	2.0	2.5	3.0	3.75	4.5	5.0	6.0	7.5	15.0

※ 直径はcm

- ③ まとめの場面では、課題「視力と直径にはどのような関係があるのだろうか?」に立ち返り、視力と直径の関係を横の見方・縦の見方のそれぞれでまとめるように促しました。生徒は右図のようにまとめることができました。

このように、「どのように」や「なぜ」から始まる課題を設定し、解決後に課題に立ち返ると、生徒からまとめを引き出すことができます。そうすることで、生徒は問題を解決する際に用いた数学を整理することができます。

ポイント3

<横の関係>  
視力が3、4、5、...倍すると直径は÷3、÷4、÷5、...になる

<縦の関係>  
視力×直径=0.75

## 研究会

研究会当日は、3つの授業を公開します。事前に指導案を読んだり、可能であれば事前に授業を実践してきたりしてください。

当日は手立ての有効性や、よりよい指導の方法など、具体的な協議を行いましょう。また、研究会後、ご自分の授業で追試してみてください。

この研究会を通して、日ごろの授業を「数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成する授業」に近づけていきましょう。



<昨年の一斉研修の様子>

<令和7年度 Class 10 通常版>

単元(題材)の様子	
<p>○○○○○○○○○○○○○○○、○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○します。(そのポイント設定の理由)</p> <p>これにより、○○○○○○○、○○○○○○○○できるよ うになります。(手立てにより、活用・発揮させる資質・ 能力)。</p>	図表・写真など
ポイント1	
<p>○○○○○○○○○○○○○○○、○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○します。(そのポイント設定の理由) ○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○です。(具体的な説明)</p> <p>これにより、○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○、○○○○○○○○できるようにります。○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○ (手立てにより、活用・発揮させる資質・能 力)。</p>	図表・写真など
ポイント2	
<p>○○○○○○○○○○○○○○○、 ○○○します。(そのポイント設 定の理由)</p> <p>これにより、○○○○○○○、 ○○○○○できるようになりま す。(手立てにより、活用・発揮 させる資質・能力)。</p>	図表・写真など
ポイント2	
<p>“○○○○○○○○”の○○○○ ○○は、○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○予定で す。 ○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○授業を予定 しています。</p>	図表・写真など
研究会  ポイント1・2・3	プレ授業時の様子 や使用予定教材の写 真など
<p>○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○しま す。</p>	

前のページで記述した手立てを、単元・題材の内容に準じて記述してください。そして、手立てによって、生徒は資質・能力をどのように活用・発揮していくかを詳しく記述してください。

ポイントについては、前のページのポイントと整合するように書いてください。

図表・写真は、適宜、手立てに関する写真（板書、教具、発問、生徒の記述、生徒の活動の様子など）を挿入してください。  
昨年度のプレ授業の授業写真でも大丈夫です。

**【留意点】**

原稿に掲載する写真について、生徒の顔が明確に判別できるものに関しては、執筆担当者が学校を通じて本人及び保護者から掲載の許諾をとるか、顔が判別できないよう写真の加工を行ってください。

研究会の項目については、研究会で公開予定の本時の概略（学習課題、学習内容、生徒の様子、授業の見どころなど）を書いてください。



## 題材の様子

佐渡には国内でも唯一、宮大工を中心に学ぶ学科のある専門学校が存在します。宮大工を目指す学生が全国各地から集まるこの学科では、志のある学生たちが伝統文化を継承するべく日々の修行(学習)に取り組んでいます。本題材では、この「SADO伝統文化と環境福祉の専門学校」から伝統建築大工学科の親方と学生をゲストティーチャーに招いた実践を行い、公開します。



### ポイント1

#### ① 設定について

伝統的な接合方法に焦点を当てて課題解決的な学習を行います。

専門学校の先生(親方)の作った作品の接合の方法について疑問をもち、その加工方法を考えます。既習の知識や技能を総動員し、その加工方法を考えます。使う道具や加工部分についてグループで検討し、検証していきます。



### ポイント2

#### ② 思考について

親方や学生にグループの考えを発表し、意見やアドバイスをフィードバックしてもらい、製作への意欲を高めていきます。

そして接合の方法を親方や専門学校の学生から直接学びます。この地域人材との積極的な交流と対話的な学びにより、新しい技術や技能の習得を目指します。この交流の中で今までに体験することのなかった伝統的な加工の技術を肌で感じ取ります。知識に偏ったり理屈に拘ったりするような学びではなく、ホンモノの学びを得ることができます。



### ポイント3

#### ③ 解決について

ゲストティーチャーから学んだ接合方法を、自分の作品に生かすことができるかどうか、自己の作品を振り返って考察、検討します。

また、自己の作品を他者に評価してもらうことで意欲を向上させたり生活に生かしたりすることができるようになります。



生徒はゲストティーチャーと接して「知らないことがあった」「わかりやすく教えてもらった」「なるほどと思った」「隙間なく加工するのは難しかった」などを学習シートに記述していました。学生も生徒の発想の面白さを把握すると共に、「時間がたりなかった」「伝えるのは難しいと思った」という感想をいただきました。



<令和7年度 Class 10 単元・題材説明あり版>

## 単元(題材)について

単元・題材で扱う教材について詳しい解説が必要な場合は、必要に応じて解説を加えてください。その教材の価値、魅力、特徴などを記述してください。写真、図も活用してもいいです。

## 単元(題材)の様子

○○○○○○○○○○○○○○○、○○○○○○○○○○○○  
○○○○○○○○します。(そのポイント設定の理由) ○○  
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○  
○です。(具体的な説明)

これにより、○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○  
○、○○○○○○○○できるようにになります。(手立てに  
より、活用・発揮させる資質・能力)。 ○○○

## ポイント1

図表・写真など

○○○○○○○○○○○○○○、  
○○○します。(そのポイント設  
定の理由)

これにより、○○○○○○、  
○○○○できるようになりま  
す。(手立てにより、活用・発揮  
させる資質・能力)。

## ポイント2

図表・写真など

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○  
○、○○○します。(そのポイント設定の理由)  
これにより、○○○○○  
○○○○○○○、○○○○  
○○○○○○○○○○○○  
○○○○○を育成します。

### ポイント3

## 研究会

“○○○○○○○○”の○○○  
○○は、○○○○○○○○○○○○○○  
○○○○○○○○○○○○○○○予定で  
す。  
○○○○○○○○○○○○○○○○  
○○○○○○○○○○○○○授業を予定  
しています。 **ポイント1・2・3**

## ポイント1・2・3

図表・写真など

プレ授業時の様子  
や使用予定教材の写  
真など

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○  
○○○○○○○○○○○○○○○○○○しま  
す。

# 冊子 Class 指定研究 2 年次の全県教科部長のページ構成イメージ

各地区の「深い学びにいたる授業ポイント」などの研究内容について、教科・領域としての解説をお願いします。教科・領域で重点的に取り入れた考え方、手だての方向性、各地区での研究の過程などを取り上げていただきながら、ご執筆をお願いいたします。

## 全県部長（2 ページ）

●「深い学びにいたる授業」について

## 国語

### 課題を工夫し、伝え合う場を充実させて 自身の考えを練り上げ再構築する授業づくり

国語科の授業で生徒が深い学びにいたるためには、「作品を通して伝え合う場をどう充実させるか」が重要。

なぜ伝え合う場の充実が大切かというと、作品について自分の考えを伝え合う中で、練り合い、練り上げが起こり、自分の考えが再構築されるからです。

課題に興味をもたせることや、自分の考えに自信をもつための基礎知識の理解も充実した伝え合いの土台となります。



県中教研 国語部 全県部長  
上越市立八千穂中学校 校長 渡辺 徳彦

#### 「伝え合う場」充実への土台づくり～課題への興味や基礎知識～

例えば、約350年前の江戸時代に書かれた松尾芭蕉の紀行文「おくのほそ道」を、令和の生徒に興味深く読ませるにはどうすればよいでしょうか。興味をもつということは「自分ごと」と捉えるということ。古典に記された内容と、現代の自分との共通点を見い出すことも、古典作品を自分ごとと考えるための一つの大きな手法です。

共通点を見いだすために、まず、作品を正しく理解することが求められます。歴史的背景、当時の旅の意味、俳句の形式などの基礎知識を学んでおく必要があります。その上で、芭蕉は何に心を動かされたのか、自分の考えをまとめます。芭蕉は、奥州平泉を訪れ、「平家物語」の中で活躍が描かれる源義経の最期に思いをよせました。

ここで大切なのは芭蕉が思いをよせた内容や旅に対する思いを正しく捉えなければ「伝え合い」が正しく成立しない点です。古典作品「おくのほそ道」の筆者がさらにその400年前の「平家物語」に思いをはせる。それを令和の自分たちが思いをはせて読む。この古典作品や歴史のつながりの線上に自分たちも存在するという意識をさせた課題提示を工夫すれば、古典作品を自分ごとと捉えるのではないのでしょうか。

作品を正しく理解することで自信をもって自分の考えを伝え合うことができます。歴史的背景、当時の旅の意味、俳句の形式などの基礎知識が土台として大切であることが分かります。



16

●「深い学びにいたる授業」について

## 総合的な学習の時間

### 実生活や地域の中から自ら課題を見出し、 その解決のための方策を探る

予測が難しく、変化の激しい現代社会において、探究的な見方や考え方を働かせ、よりよく課題を解決し、さらには自己の生き方を考えていく、また、そのための資質・能力を育むことを目標とした総合的な学習の時間。

今回は地域活性化に向けた取組を通して、自分の将来と地域の在り方について考える実践を進めてきました。



県中教研 総合的な学習の時間部 全県部長  
新潟市立岩室中学校 校長 小塚 忠昭

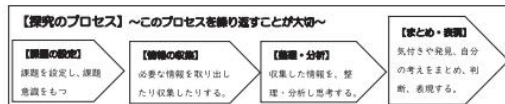
#### 総合的な学習の時間で育みたい資質・能力について考える

総合的な学習の時間の目標は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを旨とするものと示されています。また、目標や内容については各学校で定めるとしており、各学校では、地域の特性や生徒の実態、学校の教育方針などに基づき、目標や内容の他、育みたい資質・能力の育成方針を定めています。

そして、育成したい資質・能力を具体化するため、総合的な学習の時間で様々な教育活動

ト型学習（PBL）やフィールドワーク、地域連携活動といった学習などが考えられます。また、生徒自身がこれらの学習を通してどのような力が付いたかを認識することで、自己肯定感や自己有用感の高まりにもつながります。時には地域の方々からの評価も有効です。

これらが効果的に作用することで、生徒はどのようにしたら社会や自分の人生をよりよいものにしていけるかを考え、自分の可能性の広がりにも気付くことができるものと考えます。



### 深い学びにいたるための「作品を通して伝え合う場の充実」をどう工夫するか（練り合い・練り上げを実現する深い学びの技法）

「主体的・対話的で深い学び」にいたるために、伝え合う場をどう充実させるかが重要です。自分の考えを伝え合う中で練り合い、練り上げが起こり、自分の考えが再構築されます。これが早稲田大学田中教授の「深い学びの技法①」です。友だちとの練り合いや練り上げは「深い学び」の真骨頂です。

練り合いや練り上げが起こる場をつくるため、まずは個人が資料やデータに基づいて考察します。（深い学びの技法②）作品を通して

伝え合いの場では、作品を学んだ基本的な知識技能を活用して思考や表現をします。（深い学びの技法③）また、理由や根拠を示して論理的に説明することも大切です。（深い学びの技法④）そして、自分の言葉で学んだことを整理してまとめます。（深い学びの技法⑤）このように、深い学びの技法を生徒に意識させながら伝え合う活動を行うことで、自分の考えの練り合い・練り上げが起こり、考えが再構築されます。



#### 課題に興味をもたせ、伝え合う場を充実させる各地区の工夫

国語科の授業で深い学びにいたるために「伝え合う場をどう充実させるか」を共通理解し、各地区独自の迫り方で伝え合う場を充実させています。以下に取組の例を紹介します。

- 古典の内容を「自分ごと」と考えることができる課題提示を行う。
- 正しく作品を理解し、伝え合いを正しく方向付けるために、作品についての基礎・基本を定着させる。
- 習熟度に関わらず自己の考えを練り上げるため ICT 機器を活用。
- 主張について根拠や理由付けを大切に作者の意図に迫ることを読みを深める。
- 「学習ログ」を活用して主体的な学びを支えるだけでなく、思考を再構築する振り返りの場面で「学習ログ」を更新する。

#### 国語 重点方針

- 言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育てるために、話す・聞く、書く、読む力を育み、学ぶ意欲をもつことができる国語の学習指導に努める。
- 学び合う言語活動を通して、考えを広げたり深めたりし、思考力や想像力を育てる。
- 考えを明確にし、構成を考えて文章を書く力を育てる。
- 話の内容や意図に応じた表現力を育てる。
- 目的に応じて主体的に文章を読み、内容を的確に読み取る力を育てる。

17

### 深い学びにいたる学習課題設定と、自分事にするための地域社会との連携における工夫

新潟県中学校の実践では、アントレプレナーシップ教育の考えを取り入れた実践が行われます。この教育の理念に含まれる様々な要素を取り入れながら、新潟市内の「しもまち」地区の活性化について考えます。生徒は地域の声や行政の取組など生の声を聞くことでより現実的な課題意識をもつことができ、それらを基に、自分たちが考えた活性化案をプレゼンします。それ聞いた地域の方々や行政、起業家との意見交換の中からさらに考えを深めていきます。



#### 学校全体で取り組みたい体制整備・地域連携に向けて

生徒の主体的な学びを促進していくためには、各学校において、継続的に総合的な学習を進め、学校全体で一貫性をもった取組を行う必要があります。校内で限られた担当者のみが計画、運営をしてはこれらが難しくなります。また、生徒の活動が多岐に渡るため、アドバイスする職員にも高いスキルや知識が求められるケースも出てきます。これらの点から、学年部または学校全体で総合的な学習を計画・運営していく体制整備が求められます。

今年度の実践のように、地域との連携が求められる活動では、地域教育コーディネーターや学校運営協議会（CS）の協力も不可欠となります。地域社会との協力関係構築は、学習の持続性から見て有効だと考えます。また、生徒の活動が地域社会や地元企業へ還元されることで今後の連携も一層強化されていくと思います。

- 【総合的な学習を継続的に進めていくために大切にしたいこと】
- ① 学校全体で育みたい資質・能力について検討と共有
  - ② 学校全体で年間計画の策定と共有
  - ③ 学校全体での支援体制の構築（職員研修も含む）
  - ④ 地域社会・外部機関との連携構築
  - ⑤ 成果の発信と共有・地域への還元（地域や外部への発信も含む）
  - ⑥ 継続的な振り返りと評価

#### 総合的な学習の時間 重点方針

- 学習過程と評価を中核に、主体的・対話的で深い学びを実現する学習指導を推進する。
- 学習過程において、「課題設定」を工夫し、「協働的な学習」と「言語活動」を適切に位置付けることを通して、探究的な学習の充実を図る。
- 「育でようとする資質や能力及び態度」の観点に配慮した評価の観点を定め、それに基づいて生徒の具体的な学習状況を想定した評価規準を設定し、学習評価の充実を図る。

65

(国語、数学、道德)

(技術・家庭)

(美術、特別活動)

(総合的な学習の時間)

資料・24



● 指定研究 1 年目、研究の進捗状況・予定はこんな感じです

## 社会

単元を見通して、「見方・考え方」を働かせながら深い学びにいたる授業づくりを目指します！

生徒の実態を踏まえ、学習内容を構造化し、生徒の問題意識の変化を想定しながら単元を構想し、学習をデザインしていきます。その際に、深い学びの技法を手立てとして、学びの質の向上を図ります。



全県部長  
魚沼市立広神中学校  
校長 小森 一秀

### ▶上越地区

深い学びにいたる授業を目指して！！



柏崎市・刈羽郡中教研  
柏崎市立東中学校  
新保 隆之

第 1 回研究推進委員会で、目指す深い学びの姿を共有しました。「学び合い」を「深い学び」につなげるための手立てや働きかけを探りながら、研究を進めています。

第 1 回研究推進委員会の様子



### ▶新潟地区

「深い学びの技法」を共有！



新潟市中教研  
新潟市立葛塚中学校  
木村 伸

単元を通したねらいを達成するために、「深い学びの技法」を活用し、社会的見方・考え方を深めていくかを、模擬授業などを通して明確にしています。

研究推進委員会の様子



### ▶中越地区

教師の「問い」で「深い学び」へ！



長岡市・三島郡中教研  
長岡市立東中学校  
山田 圭祐

中越地区では、①教師が「構造的な問い」を準備すること、②生徒に「価値判断」「意思決定」の場面設定をすることで、「深い学び」へつながるような授業を構想しています。

第 2 回研究推進委員会の様子



### ▶下越地区

深い学びに迫る手立てとは！？



五泉市・東蒲原郡中教研  
五泉市立五泉中学校  
高橋 保嗣

推進委員会で深い学びに迫るための手立ては何かという事を共有しました。その中で「自分ごと」「言語活動の充実」「深める問い」を 3 本柱に掲げ、研究を進めていくことにしました。

研究推進委員会の様子



[illegible]

- ・教科・領域名
- ・教科・領域の部会の重点事項
- ・教科・領域の部会の重点事項の具体的な説明

上越市中教研、柏崎市・刈羽郡中教研、糸魚川市中教研、妙高市中教研、長岡市・三島郡中教研、三条市中教研、小千谷市中教研、加茂市・南蒲原郡中教研、十日町市・中魚沼郡中教研、見附市中教研、魚沼市中教研、南魚沼市・南魚沼郡中教研、燕市・西蒲原郡中教研、新潟市中教研、新発田市中教研、村上・岩船郡中教研、五泉・東蒲原郡中教研、阿賀野市・胎内市・北蒲原郡中教研、佐渡市中教研

※スキャンや切り取りしたデータではなく、**jpeg, png** 形式の写真データを使用してください。データの圧縮などはかけないでください。



様式①, 様式② 研究推進委員会計画①, 報告②(新バージョン ※昨年度のものとは違います)

県中教研 研究推進委員会				計画・報告→	計画	地区→	教科・領域→	年度→ 令和7年度																	
○：県中教研旅費補助で出席 ●：○以外で出席 ×：参加しない 距離は片道分入力で往復算出 旅費補助 (○) 合計額→ ¥0				実施日																					
				会場																					
				参加人数																					
				回	第1回																				
N0	県中教研役職	氏名	所属	職名	出欠	距離	旅費	出欠	距離	旅費	出欠	距離	旅費	出欠	距離	旅費	出欠	距離	旅費	出欠	距離	旅費	出欠	距離	旅費
1	指導者																								
2	研究推進責任者																								
3	会場校責任者																								
4	県・市町村教育主事																								
5	委員																								
6	委員																								
7	委員																								
8	委員																								
9	委員																								
10																									
11																									
12																									
13																									
14																									

- ※1 1年分の研究推進委員会の計画を立て、「計画①」として提出ください。
- ※2 最後の研究推進委員会の2週間前までに、出欠の実績を反映させ「報告②」として提出ください。
- ※3 県中教研旅費補助からの支出は○となり、1委員会あたりの年間の上限は15,000円となります。
- ※4 県中教研旅費補助以外の旅費による参加の場合は●になります。
- ※5 ○の分の旅費は2の提出をもとにして最後の研究推進委員会に間に合うように届けます。最後の研究推進委員会で各委員に旅費を配付し、同封の領収書にサインを記入いただき、回収して事務局へ送付してください。
- ※6 様式①～⑥は県中教研ホームページよりダウンロードできます。管理上、ダウンロードしたファイル種類(拡張子)を変更せず、送信してください。

見本

○：〇以外でない  
●：〇以外で出ない  
×：参加しない

¥14,860

様式①で提出時「計画」  
様式②で提出時「報告」  
にする

入力距離は片道です。Map  
Fai等地図ソフトでお調べく  
ださい。

前副部長の初回旅費はこの旅費補助とは別で県中教研より支給いたします。

「●」にしてください。

開催日2週間前までに本シートを送付ください。

○●×の意味はこのとおりです。旅費補助の合計額を15,000円以内にして下さい。

この委員会の場合、10/3で「〇」が終了するので、11/13か12/17の2週間前までに様式2として本シートを送付すると、「〇」分を現金書留でお届けします。「〇」がある回の実施前に本シートを送付し旅費補助を受け取った後に、急な欠席等で変更があると差額の返金などが必要になるため、最終回の前までに「〇」が終了していることが望ましいです。

オンライン参加の場合は、「〇」で、旅費は「〇」で入力してください。

・高速道路の利用は、往復100km以上で片道代を支給して下さい。セルの式に( )+高速片道で計算するか、または手入力でお願いたします。

## 様式③ 指定研究 経過の概要報告書

## 令和 年度 県中教研指定研究 経過の概要報告書（１年次）

新潟県中学校教育研究会会長 様

報告者氏名 \_\_\_\_\_  
(学校名: \_\_\_\_\_)

このことについて、下記のとおり報告します。

1 部会名 \_\_\_\_\_

2 郡市名 \_\_\_\_\_ 3 会場校 \_\_\_\_\_

## 4 研究主題

--

## 5 主題設定の理由と目指す深い学びの姿

## 6 研究の方法と内容（深い学びの技法と学習過程に関して）

## 7 1年次の成果と課題

## 8 運営の成果と課題

※1 各地区中教研事務局と当該教科・領域の15部会全県部長へそれぞれ1部ずつ提出する（※切1/9）

※2 資料の4(4)県・都市指導主事の行は、指導者が県・都市指導主事の場合は、その行を詰める。また、前副部長はこの表には載せない。

※3 報告書（１～８）は２ページにする。資料（１～５）は１～２ページにする。

※4 提出の際は、注意書きや※1～※4 を削除して提出する。

1 部会名 \_\_\_\_\_

2 郡市名 \_\_\_\_\_ 3 会場校 \_\_\_\_\_

4 研究推進委員会

役 割	所 属 ・ 職 名	氏 名
(1) 指導者		
(2) 研究推進責任者		
(3) 会場校責任者		
(4) 県・郡市指導主事		
(5) 研究推進委員(授業者)		

5 研究推進委員会の実施日、参加人数と内容

回	実施日／会場	人数	主な内容
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

※ 「委員どうしによる授業の見せ合い」は実施者等実施内容を記述する。

### 様式④ 研究推進費 収支決算書

						令和	年	月	日
令和      年度 県中教 指定研究（１年次）研究推進費 収支決算書									
<郡市名>		<研究推進責任者>		学校名					
				教 諭					印
<教科・領域名>		<会 場 校 校 長>		学校名					
				校 長					印
1 収入の部									
項 目		決 算 額		内 訳					
指定研究 研究推進費（１年次）		50,000		県中教研より					
合 計		50,000							
2 支出の部									
科目（経費の区分）		決 算 額		内 訳					
合 計		0							
3 収支		(収入)		(支出)		(残金)			
		50,000		－		0		＝ 50,000	
残金を次年度に繰り越します。									
(注)									
1 科目（経費の区分）には、講師謝礼・調査旅費、資料費（研究資料印刷費を含む） 消耗品費（研究用図書購入費を含む）・会議費等とする。									
2 経費の執行にかかる領収書を添えて提出する。									
3 提出先 各地区中学校教育研究会事務局に郵送（〆切：２月20日）									

※ 地区事務局へ提出。令和8年2月20日締切。

※ 3 の残金は次年度への繰り越しとなる。



様式⑤ 研究主題等の報告

県中教研 研究主題等 報告

教科・領域 地区		(例) 国語・上越
研究推進責任者 職		苗字と名前の間に、 <b>全角スペース</b> を1文字入れてください。
氏名		(例) 新潟__太郎 ※ 他の氏名を同様にしてください。
会場校		〇〇市立〇〇中学校
研究会開催日		(例) 2025/11/1
会場責任者 職		
氏名		
指導者 所属機関		指導者の方の「所属機関」「役職」につきましては、県教職員名簿を参照してください。
職		(例) 〇〇市教育委員会 学校支援課
氏名		副参事 ※副参事、主幹、主査などを明記してください。
指導者 所属機関		新潟__太郎
職		
氏名		
研究主題		
副題		
連絡事項など		事務局への連絡事項等がありましたら、ここに御記入ください。
授業者1 職		<b>研究会当日の授業者のみ</b> でお願いいたします。複数の学級を公開する場合は、それぞれの学級の担当者を記入してください。
氏名		
授業者2 職		
氏名		
授業者3 職		
氏名		

- ※1 指定研究会を開催する指定研究2年次の教科・領域が対象になります。
- ※2 上の内容をエクセルファイルに入力しメール添付して送信ください。「指定研究1次案内」に載せる原稿として利用いたします。
- ※3 報告〆切 6月末日

## 提出⑥ 指定研究 成果の概要報告書

### 令和 年度 県中教研指定研究 成果の概要報告書（2年次）

〇〇地区中学校教育研究会会長 様

報告者氏名 \_\_\_\_\_  
(学校名: \_\_\_\_\_)

このことについて、下記のとおり報告します。

1 部会名 \_\_\_\_\_

2 郡市名 \_\_\_\_\_ 3 会場校 \_\_\_\_\_

4 研究主題

--

5 主題設定の理由と目指す深い学びの姿

6 研究の方法と内容（深い学びの技法と学習過程に関して）

7 研究の成果と課題

8 運営の成果と課題

※1 各地区中教研事務局と当該教科・領域の15部会全県部長様へそれぞれ1部ずつ提出する（べ切1/9）

※2 資料の5(4)県・郡市指導主事の行は、指導者が県・郡市指導主事の場合は、その行を詰める。また、前副部長はこの表には載せない。

※3 報告書（1～8）は2ページにする。資料（1～9）は1～2ページにする。

※4 提出の際は、注意書きや※1～※4を削除して提出する。

1 部会名 \_\_\_\_\_

2 郡市名 \_\_\_\_\_ 3 会場校 \_\_\_\_\_

4 研究会開催期日 令和 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 ( )

5 研究推進委員会

役 割	所 属 ・ 職 名	氏 名
(1) 指導者		
(2) 研究推進責任者		
(3) 会場校責任者		
(4) 県・郡市指導主事		
(4) 研究推進委員(授業者)		

6 研究推進委員会の実施日、参加人数と内容

回	実施日／会場	人数	主な内容
1			
2			
3			
4			
5			
6			

※ 「委員どうしによる授業の見せ合い」は実施者等実施内容を記述する。

7 研究会参加者（参加者数と内訳）

研究会参加者総数 ( ) 名	(3) 小学校・高等学校教員 ( ) 名
(1) 郡市内中学校会員 ( ) 名	(4) 教育委員会・センター ( ) 名
(2) 他郡市中学校会員 ( ) 名	(5) その他(地域・保護者の方) ( ) 名

8 公開授業

学年・組	単元・主題	授業者	学年・組	単元・主題	授業者

9 分科会（全体協議会）

分科会名	協議題	指導者	司会者	提案者
第1分科会		〇〇教育事務所 指導主事 〇〇 〇〇 様	〇〇立〇〇中学校 〇〇 〇〇教諭	当校教諭 〇〇〇〇

提出⑦ 研究会費

					令和 年 月 日	
令和 年度 県中教 指定研究（２年次）研究推進費 収支決算書						
＜郡市名＞		＜研究推進責任者＞		学校名		
				教 諭		印
＜教科・領域名＞		＜会 場 校 校 長＞		学校名		
				校 長		印
1 収入の部						
項 目		決 算 額		内 訳		
指定研究 研究推進費(2年次)		30,000		県中教研より		
繰り越し				前年度の研究推進費（１年次）残金		
合 計		30,000				
2 支出の部						
科目（経費の区分）		決 算 額		内 訳		
合 計		0				
3 収支		(収入)		(支出)		(残金)
		30,000		－	0	= 30,000
残金なし or 残金を県中教研事務局に返金します						
(注)						
1 科目（経費の区分）には、講師謝礼・調査旅費、資料費（研究資料印刷費を含む）						
消耗品費（研究用図書購入費を含む）・会議費等とする。						
2 経費の執行にかかる領収書等を添えて提出する。						
3 返金がある場合は、県中教研の指定口座に振り込む。						
なお、振込手数料は支出の部に「振込手数料（返金）」として記載する。						
4 提出先 各地区中学校教育研究会事務局に郵送（〆切：2月20日）						

※ 地区事務局へ提出。2月20日締切。

※ 繰越金がある場合は、収入の部に入れる。

## <委嘱依頼書の書式>

令和〇年〇〇月〇〇日

□□ 〇〇〇〇

□□ 〇〇〇〇 様

新潟県中学校教育研究会  
会長 金山 光宏  
新潟県中学校教育研究会  
全県部長 〇〇 〇〇

### 〇〇地区（郡市）・〇〇部 研究推進委員委嘱について（依頼）

〇〇の候、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

日頃から当会へのご指導・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

当会では、新潟県中学校教育研究会・指定研究推進事業の一環として、研究推進委員会を組織し、各地区・郡市の教科・領域の研究推進ならびに研究成果の発表に向けて活動を推進しております。

標記の件につきまして、貴〇〇所属の\_\_\_\_\_様を「指導者 / 研究推進委員」に委嘱いたしたく、ご承諾くださるようお願い申し上げます。

- 1 委員会の名称 新潟県中学校教育研究会〇〇地区（郡市）・〇〇部 研究推進委員会
- 2 委員会の目的 新潟県中学校教育研究会の指定研究推進事業の一環として研究を推進するため
- 3 委嘱期間  
自 令和〇年〇月〇日  
至 令和〇年 3 月 31 日
- 4 期間中の研究推進開催回数 およそ 5 回～ 8 回  
(詳細は各委員会から計画が出されます)
- 5 開催時間数（1 回当たり） 2 ～ 3 時間
- 6 交通費の有無 当会で負担いたします
- 7 その他  
・今後、研究推進委員会を開催するにあたり、担当より派遣文書を事前に送付いたします。

#### 【担当】

〇〇地区（郡市）・〇〇部 研究推進委員会  
副部長 〇〇 〇〇  
(〇〇市立〇〇中学校)  
TEL : 〇〇〇〇〇〇



## <派遣申請の書式>

### 1 指導主事派遣申請・案内（所属長宛て）

令和 年 月 日

〇越教育事務所長 様

新潟県中学校教育研究会 会長 金山 光宏  
〇〇市〇〇郡中学校教育研究会 会長 〇〇 〇〇

### 指導主事の派遣について（依頼）

このことについて、管内〇〇市立〇〇中学校において下記により「令和〇・〇年度県中教研指定（教科領域名）研究推進委員会（または研究会）の開催を計画しておりますので、公務ご多用のこととは存じますが、貴事務所指導主事 〇 〇 〇 〇 様 を指導者（または助言者など）として派遣くださいますようお願いいたします。

#### 記

1 日 時 令和 年 月 日（月） 時 分 ～ 時 分

2 会 場 会場名  
所在地  
電話番号

3 目 的 令和〇・〇年度県中教研指定（教科領域名）研究会の研究推進委員会（または研究会）

#### 4 その他

- （１）旅費は県中教研で負担いたします。
- （２）ご不明な点は下記にお問い合わせください。

担当者 電話番号
-------------

## 2 指導主事派遣申請・案内（本人宛て）

令和 年 月 日

〇越教育事務所 〇〇〇〇課

指導主事 〇 〇 〇 〇 様

新潟県中学校教育研究会 会長 金山 光宏

〇〇市〇〇郡中学校教育研究会 会長 〇〇 〇〇

### 令和〇・〇年度県中教研指定（教科領域名）研究推進委員会の開催について（案内）

標記の会議を開催のとおり計画いたしました。

つきましては、公務ご多用のこととは思いますが、ご出席を賜り、ご指導いただけますようご案内いたします。

#### 記

1 日 時 令和 年 月 日（月） 時 分～時 分

2 会 場 会場名  
所在地  
電話番号

3 目 的 令和〇・〇年度県中教研指定（教科領域名）研究会の研究推進委員会

#### 4 その他

（１）旅費は県中教研で負担いたします。

（２）ご不明な点は下記にお問い合わせください。

担当者  
電話番号

### 3 研究推進委員会の各委員への派遣申請・案内(所属長宛て)

令和〇〇年〇〇月〇〇日

所 属 長 様

〇〇市〇〇郡中学校教育研究会 会長 〇〇 〇〇

〇〇市立〇〇中学校 校長 〇〇 〇〇

内容に応じて会の名称を変更ください。

令和〇〇年度 県中教研〇〇部 研究推進委員会（〇〇地区）  
の開催に伴う貴所属職員の派遣について（依頼）

標記のことについて、下記により、会議を開催いたしますので、校務ご多用のこととは思いますが、  
貴所属 〇 〇 〇 〇 様を派遣くださいますようお願いいたします。

記

1 日 時 令和〇〇年〇〇月〇〇日（ ） 午後〇時〇〇分～ 〇時〇〇分

2 会 場 〇〇市立〇〇中学校  
〇〇市〇〇区〇〇  
TEL

3 内 容  
(1)  
(2)  
(3)

4 その他

(1) 旅費は当会で負担いたします。

(2) ご不明な点は下記にお問い合わせください。

担当者  
電話番号

(状況に応じて文を差し替える)

(1) 旅費は申し訳ありませんが支給できませんので、特段の御高配をお願い申し上げます。

#### 4 研究推進委員会の各委員への派遣申請・案内(本人宛て)

令和〇〇年〇〇月〇〇日

〇〇市立〇〇中学校

〇 〇 〇 〇 様

〇〇市〇〇郡中学校教育研究会 会長 〇〇 〇〇

〇〇市立〇〇中学校 校長 〇〇 〇〇

令和〇〇年度 県中教研〇〇部 研究推進委員会（〇〇地区）の開催について（案内）

標記のことについて、下記により、会議を開催いたしますので、校務ご多用のこととは思いますが、ご出席いただきますようご案内いたします。

#### 記

1 日 時 令和〇〇年〇〇月〇〇日（ ） 午後〇時〇〇分～ 〇時〇〇分

2 会 場 〇〇市立〇〇中学校  
〇〇市〇〇区〇〇  
TEL

3 内 容  
(1)  
(2)  
(3)

4 その他

- (1) 旅費は当会で負担いたします。  
(2) ご不明な点は下記にお問い合わせください。

担当者  
電話番号

(状況に応じて文を差し替える)

(1) 旅費は申し訳ありませんが支給できませんので、特段の御高配をお願い申し上げます。

## 5 指定研究会案内の例(2年次研究会)

令和〇年〇月〇日

〇〇地区中学校長 様  
関 係 者 様

〇〇市〇〇郡中学校教育研究会 会長 〇〇 〇〇  
〇〇市立〇〇中学校 校長 〇〇 〇〇

令和〇、〇年度 新潟県中学校教育研究会指定（〇〇地区・〇〇[教科・領域名を記入]）  
教育研究発表会の御案内（第２次）

初秋の候、皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、この度、標記の研究発表会を下記のように開催いたします。この会は、新潟県中学校教育研究会の指定研究推進事業（２年間）の２年次の研究成果の発表になります。

[illegible]

ご多用のこととは存じますが、多くの皆様からご参加いただきますようご案内申し上げます。

記

## 研究主題

- |   |     |              |   |
|---|-----|--------------|---|
| 1 | 日 時 | 令和〇年〇月〇日 (〇) | 〇〇 : 〇〇 ~ 〇〇 : 〇〇   |
| 2 | 会 場 | 〇〇市立〇〇中学校    | 〒000-0000 〇〇市〇〇〇〇-〇<br>Tel 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇<br>Fax 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇 |
| 3 | 主 催 | 新潟県中学校教育研究会  | 〇〇市〇〇郡中学校教育研究会  |
| 4 | 目 程 |              |   |

13:40 14:00 14:50 15:10 16:30 16:40

受 付	授業公開	移 動	授業協議会・指導	閉 会
--------	------	--------	----------	--------

- 5 指導者 ○○○市立○○中学校 校長 ○○ ○○ 様

## 6 内 容

### 【授業公開】

学 組	授 業 者	教科・領域	内 容
○年○組	○○ ○○ 教諭	○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○

【全体発表】 ○○中学校研究主任 ○○ ○○ 教諭

【全体指導】 ○○市立○○中学校 校長 ○○ ○○ 様

## 7 参加申込み

【申込み方法】 別紙参加申込書にご記入の上、FAX または E-mail でお申込みください。

※ 研究推進委員会や会場校の判断で Google フォーム等の利用も可能

FAX ○○○-○○○-○○○○

E-mail ○○○@○○○.ne.jp

【申込み先】 ○○市立○○中学校 ○○ ○○ あて

【締め切り】 令和○年○月○日（ ）までをお願いします。

※学校事情により、締め切りを早めに設定させていただきます。

【問い合わせ】 不明な点は、下記までお問い合わせください。

○○市立○○中学校 ○○ ○○

TEL ○○○-○○○-○○○○

## 8 交通案内





【参加申込送信票】 (送り状不要)

〇〇市立〇〇中学校 〇〇 〇〇 あて

令和〇, 〇年度 新潟県中学校教育研究会指定 (〇〇地区・〇〇[教科・領域名を記入])  
〇〇〇〇 教育研究発表会 参加申込書

所属・勤務先	
電話番号	
F a x 番号	

職 名	氏 名	車の利用	備 考
		有 ・ 無	
		有 ・ 無	
		有 ・ 無	
		有 ・ 無	

※ 自家用車でご参加の場合は、できるだけ乗り合いでお願いします。

【申込み方法】 本票にご記入の上、FAX または E-mail でお申込みください。

※ 研究推進委員会や会場校の判断で Google フォーム等の利用も可能

FAX 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇

E-mail 〇〇〇@〇〇〇.ne.jp

【申込み先】 〇〇市立〇〇中学校 〇〇 〇〇 あて

【締め切り】 令和〇年〇月〇日 ( ) までにお願いします。

※学校事情により、締め切りを早めに設定させていただきます。

【問い合わせ】 不明な点は、下記までお問い合わせください。

〇〇市立〇〇中学校 〇〇 〇〇 あて

TEL 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇

＜指定研究会案内の例＞

〇〇地区中学校長 様  
関 係 者 様

〇〇市立〇〇中学校 校長 〇〇 〇〇

「研修会、研究発表会などと記入」

ご多用のこととは存じますが、多くの皆様からご参加いただきますようご案内申し上げます。

研究主題

## 4 目 程

16:30      16:40

受 付	授業公開	移 動	授業協議会・指導	閉 会
--------	------	--------	----------	--------

5 指導者 ○○○市立○○中学校 校長 ○○ ○○ 様

## 6 内 容

### 【授業公開】

学 組	授 業 者	教科・領域	内容
○年○組	○○ ○○ 教諭	○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○

【全体発表】 ○○中学校研究主任 ○○ ○○ 教諭

【全体指導】 ○○市立○○中学校 校長 ○○ ○○ 様

## 7 参加申込み

【申込み方法】 別紙参加申込書にご記入の上、FAX または E-mail でお申込みください。

※ 研究推進委員会や会場校の判断で Google フォーム等の利用も可能

FAX ○○○-○○○-○○○○

E-mail ○○○@○○○.ne.jp

【申込み先】 ○○市立○○中学校 ○○ ○○ あて

【締め切り】 令和○年○月○日 ( ) までをお願いします。

※学校事情により、締め切りを早めに設定させていただきます。

【問い合わせ】 不明な点は、下記までお問い合わせください。

○○市立○○中学校 ○○ ○○

TEL ○○○-○○○-○○○○

## 8 交通案内



【参加申込送信票】 (送り状不要)

〇〇市立〇〇中学校 〇〇 〇〇 あて

令和〇, 〇年度 新潟県中学校教育研究会指定 (〇〇地区・〇〇[教科・領域名を記入])  
プレ授業公開〇〇会の御案内

所属・勤務先	
電話番号	
F a x 番号	

職 名	氏 名	車の利用	備 考
		有 ・ 無	
		有 ・ 無	
		有 ・ 無	
		有 ・ 無	

※ 自家用車でご参加の場合は、できるだけ乗り合いでお願いします。

【申込み方法】 本票にご記入の上、FAX または E-mail でお申込みください。

※ 研究推進委員会や会場校の判断で Google フォーム等の利用も可能

FAX 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇

E-mail 〇〇〇@〇〇〇.ne.jp

【申込み先】 〇〇市立〇〇中学校 〇〇 〇〇 あて

【締め切り】 令和〇年〇月〇日 ( ) までにお願いします。

※学校事情により、締め切りを早めに設定させていただきます。

【問い合わせ】 不明な点は、下記までお問い合わせください。

〇〇市立〇〇中学校 〇〇 〇〇 あて

TEL 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇

## 15 部会の重点について

国語	<p>言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育てるために、話す・聞く、書く、読む力を育み、学ぶ意欲をもつことができる国語の学習指導に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学び合う言語活動を通して、考えを広げたり深めたりし、思考力や想像力を育てる。</li> <li>○ 考えを明確にし、構成を考えて文章を書く力を育てる。</li> <li>○ 話の内容や意図に応じた表現力を育てる。</li> <li>○ 目的に応じて主体的に文章を読み、内容的確に読み取る力を育てる。</li> </ul>
社会	<p>自ら考え自ら学び、確かな学力を育てる社会科の学習指導に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の学ぶ意欲を高めるために、主体的な学習を促す魅力ある「教材開発」や「単元構成の工夫」を行う。</li> <li>○ 学び合い深め合う学習を実現するために、適切な課題を設けて行う学習の充実を図り、小集団学習や話し合い活動を取り入れた「学習過程の改善」を行う。</li> <li>○ 資料を選択し活用して、自分の考えを記述・発表する力を育てる。</li> </ul>
数学	<p>「数学的な見方・考え方」「数学的活動」をより意識した授業づくりを推進し、数学的に考える資質・能力の育成を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 数学的活動における「数学化」の過程を大切にして、「数学的に表現された問題」の設定に生徒が主体的に関わることができるようにする。</li> <li>○ 「数学的な見方」「数学的な考え方」それぞれの側面を踏まえ、数学的活動の適所に「数学的な見方・考え方」を働かせる機会を意図的に設定する。</li> <li>○ 問題発見・解決の過程において働かせた見方・考え方を振り返る場面を設定し、「数学的な見方・考え方」をより豊かなものとして生徒への蓄積を図る。</li> </ul>
理科	<p>目的意識をもって科学的に自然を調べる能力と科学的な思考力を育てる学習活動の展開に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 観察や実験の予想を検討したり、結果を整理し考察・吟味したりする学習活動の充実を図ることを通して、目的意識に裏打ちされた科学的な思考力、表現力を高める。</li> <li>○ 他者との関わりや問題解決的な活動において、生徒が科学的な見方・考え方を働かせるための手立てを行う。</li> <li>○ 地域の環境や学校の実態を生かした自然体験、科学的な体験を通じた実感を重視し、自然事象の認識と科学への興味、関心を一層高める。</li> </ul>
音楽	<p>生涯にわたって音楽に親しむ生徒を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 音楽のよさを感じ、伝え、関わり合いながら学び、考える授業を展開する。</li> <li>○ 音楽を形づくっている要素を支えとして、思いや意図をもって表現する生徒を育てる。</li> </ul>
美術	<p>美術を通して、コミュニケーションができ、豊かな生き方ができる生徒を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 形や色彩など造形的な美しさを表現したり、鑑賞したりする授業を通して、お互いの見方や感じ方を認め合う生徒を育てる。</li> </ul>
保健体育	<p>体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、明るく豊かなスポーツライフを実現する資質能力を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の実態把握の充実</li> <li>○ 保健体育の見方・考え方を働かせることを意識した授業</li> <li>○ 学習過程、単元構成の見直し、工夫及び指導と評価の一体化の工夫、充実</li> <li>○ 楽しい授業、UDLの推進</li> <li>○ 個に応じた運動量の確保と体力の向上</li> </ul>
技術・家庭	<p>実践的・体験的な学習活動を通して基礎的・基本的な知識及び技術を身に付けるとともに、学習したことを生かして、よりよい生活、社会を目指そうとする能力と態度の育成に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生活実態や社会状況を適切に把握し、学習意欲を高め、生活との関連を重視した指導計画や教材開発に努める。</li> <li>○ 学習結果や技術と家庭や社会との望ましい関係等について、自分の考えを発表したり、話し合ったりする活動場面を設定する。</li> </ul>

英語	<p>学習指導要領(外国語)の趣旨を正しく理解し、その目標を実現する取組を着実に推進する中で、適切な言語活動を通して、英語で目指す資質・能力を確実に育成する。</p> <p>○ CAN-DOリストから単元の学習到達目標を設定・共有し、どの生徒も無理なく目標に迫ることができるように指導内容をバックワードで配列して行う指導を徹底する。</p> <p>○ 学習指導要領に示されている4技能5領域における言語活動例を視点に、折に触れて自校の指導の現状をチェックし、領域に偏りがないようバランスよく指導する。</p> <p>○ 即興的な表現力を育む言語活動を継続的に授業に位置づけ、進歩を実感させながら生徒の主体性や学習意欲を維持・増進させ、自立して学び続ける生徒を育成する。</p>
道徳	<p>1 校長の方針の下、道徳教育推進教師が中心となり、各校の実態を考慮して、重点目標を設定するなどして、道徳教育の全体計画及び年間指導計画を作成する。</p> <p>2 自分事としての課題になるように、道徳的諸価値の理解を基にして、生徒の考えやこれまでの生き方を確認させるなどの働きかけを工夫する。</p> <p>3 考え、議論させるために、多面的・多角的な視点からの重層的な発問や体験的な学習などを取り入れ、「自分を語る」授業を展開する。</p> <p>ア 登場人物への自我関与中心の学習</p> <p>イ 生きる上で出会う課題に対する問題解決的な学習</p> <p>ウ 道徳的行為に関する体験的な学習</p>
特別活動	<p>望ましい人間関係を築き、集団や社会の一員として、よりよい集団生活を実現する生徒を育成する。</p> <p>○ 学校における集団活動や体験的な活動の一層の充実を図る。</p> <p>○ 自分の考えを発表したり、他と交流したりしながら、考えを広げたり、深めたりする場を設定する。</p>
生徒指導	<p>いじめや問題行動、不登校の未然防止と早期発見・早期対応に努めるため、組織的・計画的な生徒指導を推進する。その際、対応のみに終始することなく、自他の個性を尊重し、生徒が互いに認め合い、協力し合うよりよい人間関係の構築を目指し、生徒の自己指導能力と社会性の育成を基盤とした生徒指導に努める。</p> <p>○ いじめは対人関係における問題との視点に立ち、全教育活動を通じて人権感覚を養うとともに、生徒主体の社会性育成活動を実施し、明確な指導方針のもとに組織的な取組を進める。</p> <p>○ すべての生徒にとって居心地のよい学校を目指し、将来の社会的自立に向けた生き方支援に努める。特に生命や性、SNS等に関わる今日的な問題については、家庭や地域、関係機関とも連携した粘り強い取組を進める。</p> <p>○ 中学校区の小学校及び関係機関との情報交換や行動連携に努め、自然体験や社会奉仕体験、職場体験などによる地域社会との関わりを通して、自律性や主体性を育む。</p>
進路指導	<p>自らの生き方を考え、夢や希望をもって主体的に進路を選択できる生徒を育成する。</p> <p>○ 自己理解を深める指導を充実させる。</p> <p>○ 生徒一人一人の将来に対する目的意識を高め、自己実現を図ろうとする態度を育てる。</p> <p>○ 勤労観・職業観を育むキャリア教育の充実を図る。</p>
総合的な学習の時間	<p>学習過程と評価を中核に、主体的・対話的で深い学びを実現する学習指導を推進する。</p> <p>○ 学習過程において、「課題設定」を工夫し、「協働的な学習」と「言語活動」を適切に位置付けることを通して、探究的な学習の充実を図る。</p> <p>○ 「育てようとする資質や能力及び態度」の視点に配慮した評価の観点を定め、それに基づいて生徒の具体的な学習状況を想定した評価規準を設定し、学習評価の充実を図る。</p>
学校保健	<p>生きる力を育む健康教育を推進する。</p> <p>○ 連携・協働しながら組織的に取り組む健康教育活動を展開する。</p> <p>○ 生徒の健康管理能力を育成するための養護教諭の支援の在り方について研修を進める。</p>



## 令和 7 年度旅費内規について

### 新潟県中学校教育研究会 旅費支給内規（令和 7 年度版）

新潟県中学校教育研究会の事業に関する旅費の支給基準を以下の通りとする（令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日の期間に施行）。

#### 1 支給対象

会長、副会長、理事長、理事、評議員、監査員、幹事、指定研究関係者、事務局が県中教研の事業にかかわる会議に出席、または出張するとき。

#### 2 旅費支給内容

[自家用車]

- (1) 勤務校から目的地までの距離×22 円を支給する。旅費の最低支給額は設定しない。
- (2) 高速道路の利用は、往復 100km 以上で支給し、片道の高速料金を支給する。なお、IC については、勤務校の直近、目的地の直近の IC とする。利用区間の証明書は提出する必要はない。

[鉄道運賃]

- (1) 鉄道運賃は、普通運賃とする。
- (2) 急行列車の運行路線では、片道 50km 以上は急行料金を支給する。
- (3) 特別急行列車を運行する路線で、片道 100km 以上は特別急行料金を支給する。
- (4) 新幹線利用は原則として、片道 300km 以上とする。但し、職務上の日程その他の事情により利用を必要とする場合は、事前に会長、事務局の承認を得る。
- (5) 特別急行料金及び新幹線は、指定席料金を含めて支給する。

[船賃]

- (1) 佐渡汽船は乗船日等で変動した実費を支給する。なお、カーフェリー 2 等の料金とする。
- (2) 佐渡から新潟で佐渡汽船を利用する場合、新潟港から目的地までの交通費を別途支給する。
- (3) 新潟から佐渡で佐渡汽船を利用する場合、両津港から目的地までの交通費を別途支給する。

[バス運賃]

- ・実費を支給する。

[航空運賃]

- ・原則として認めない。但し、職務上の日程その他の事情により利用を必要とする場合は、事前に会長、事務局の承認を得る。

#### 3 旅費雑費

- (1) 県外出張は、旅費雑費 3,000 円を支給する。
- (2) 県内出張は支給しない。

#### 4 宿泊費

- ・実費を支給する。ただし、県外は 1 泊 12,000 円、県内は 8,000 円を上限とする。

#### 5 その他

- ・会議の招集者及び主催団体等から旅費支給がなされたときは、原則として県中教研から支給しない。
- ・指定研究推進費、郡市事業補助費、地区活動推進費から旅費を支給された場合、支給対象者は、後日、関係事務局に領収書、レシートなど使用用途が示された記録を提出する。

## 各資料のダウンロードについて

### 新潟県中学校 教育研究会

県中教研について

授業づくり（令和6年度）

指定研究（令和6年度）

刊行物

お知らせ

県中教研 HP

↓  
指定研究

資料・申請関係



## 新潟県中学校教育研究会 指定研究組織

### 令和6年度 2年次の研究指定に関する提出資料など

Class原稿

指定2年次Class原稿枠・留意点 [zip]

ダウンロード

全県部長2年次Class原稿枠 [zip]

ダウンロード

2年次の指定研究会後に作成いただく書類

- ・様式①②「研究推進委員会計画」（県事務局6月末日まで）
- ・様式⑤「研究主題等報告」（県事務局6月末日まで）
- ・様式⑥「成果の概要報告書」（地区事務局、全県部長へ1/10まで）
- ・様式⑦「研究会費収支決算書」（地区事務局へ2/21まで）

指定2年次様式集（様式①②⑤⑥⑦）[zip]

ダウンロード

### 令和6年度 1年次の研究指定に関する提出資料など

指定研究のページを下にスクロール

指定研究に関する各資料をクリックし、ダウンロードしてください。

## 新潟県中学校教育研究会

### ■ 県中教研事務局 ■

事務局長 上村 慎吾

〒950-0088

新潟市中央区万代 1-3-30 万代シティホテルビル 3 階

Tel/FAX 025-290-2251

E-mail: ken-ckk@niigata-inet.or.jp

<http://www.niigata-inet.or.jp/ken-ckk/>

### ■ 上越地区中教研事務局 ■

上越市大潟町中学校

幹事 金井 謙太郎

〒949-3103 上越市大潟区潟町 575

Tel 025-534-2135 FAX 025-534-6425

E-mail: ohgata-j@jorne.or.jp

### ■ 中越地区中教研事務局 ■

長岡市立南中学校

幹事 長束 貴英

〒940-0081 長岡市南町 2-1-1

Tel 0258-32-1577 Fax 0258-34-5145

E-mail: j02minami@kome100.ne.jp

### ■ 新潟地区中教研事務局 ■

新潟市立関屋中学校

幹事 本間 正洋

〒951-8151 新潟市中央区浜浦町 2-1

Tel 025-266-4131 Fax 025-266-4132

E-mail: ngtcity-ckk@city-niigata.ed.jp

### ■ 下越地区中教研事務局 ■

新発田市立猿橋中学校

幹事 阿部 一隆

〒957-0061 新発田市住吉町 1-7-1

Tel 0254-23-1175、Fax 0254-23-6185

E-mail: master@sarubishi-j.shibata.ed.jp